

俳諧手挑灯

目錄

一 四季之詞

但春三月月レ用レ季有三月月レ通レ季六
右の下レ如此黒星レ付置レ四季共レ同断

并 年中諸國祭礼

一 雜之詞

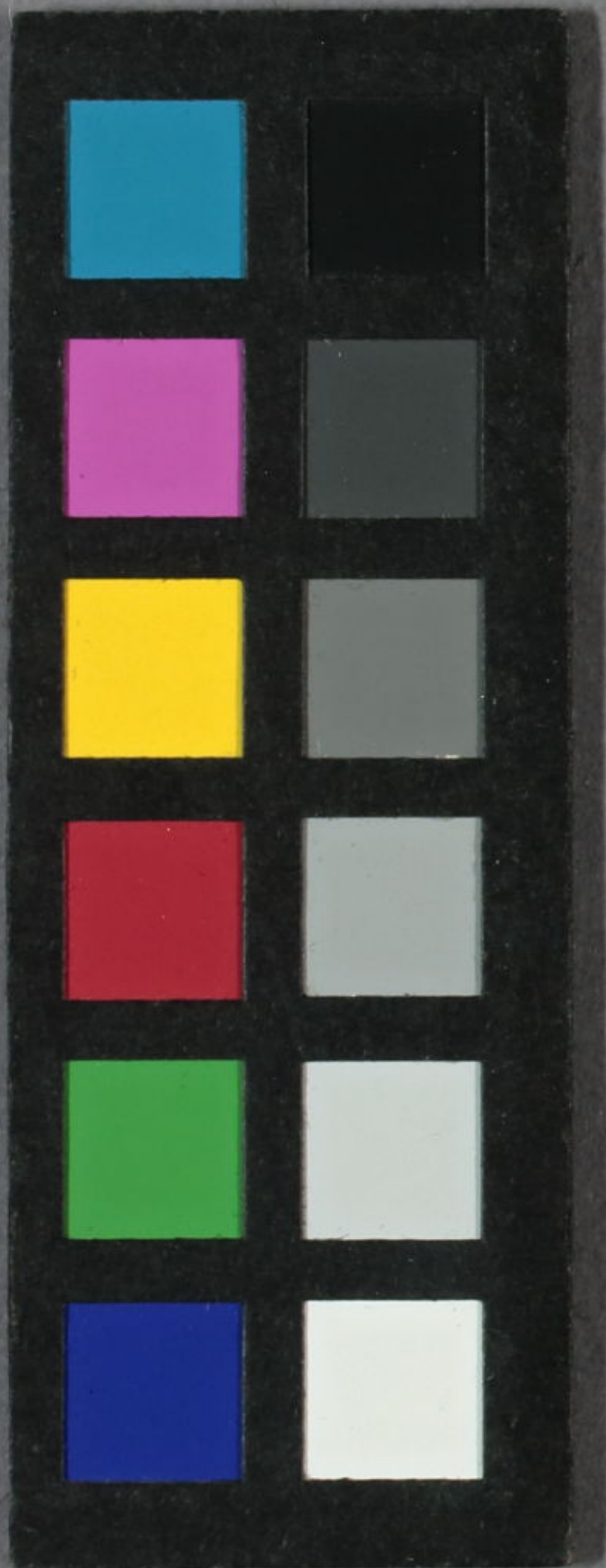
一 天象

一 簞物

一 降物

一 神祇非

一 秋教非 并兩部



戀シラ非シラ恋

迷シラ懷シラ非

居キヨ所シヨ非

夜ヤ分ブン非シラ夜

衣イ服フク非シラ衣

生シキ類レイ

旅タビ躰テイ

無ム常ジョウ哀ウ傷

人ジン倫リン非シラ人

山サン類レイ非シラ山

水スイ邊ヘン非シラ水

食シキ類レイ

植ウエ物モノ同ドウ高カウ低テイ

器キ財サイ非シラ器財付キサイツキ

支シ躰テイ支シ體付テイタイツキ

書ショ躰テイ

風フウ躰テイ

同ドウ字ジ去キョ之シ事ジ

同ドウ付ツキ

月ツキ之シ辨ベン

以イ呂ロ波ハ史シ

小於兼大槩

名ナ所ショ二名所付ナショツキ

火カ躰テイ

病ビヤウ躰テイ

同ドウ別ベツ啗ガン

賊ソク物モノ取トリ樣ヤウ

花ハナ之シ辨ベン

一發句切

發句

歌仙

俳諧手挑灯

凡例

哥一首、三十一字

一劃のてゝ交束にけし百妙の夜ほそてふ河津の香る山

如け河津の香る山 篇序題曲流

みまろし七りト六文字 は十七字と
よみのあト云 七文字ト七也 は十四字と
アモのあト云

上中合ふとそト一文字

凡

三

名残表 十句内 十句ノ月

同 裏六句内 五句ノ花 是とふほひの花とらふ

此十八句を一折

二折合テ三十六句也

百韻法

初表 八句内 七句ノ月

同裏 一折 十四句内 九句ノ月 十三句ノ花

同裏 一折 十四句内 十三句ノ月 十三句ノ花

同裏 一折 十四句内 九句ノ月 十三句ノ花

三ノ表 十四句 右同断

同裏 一折 十四句 右同断

名残ノ表 一折 十四句 右同断

同裏 一折 八句内 七句ノ花 白ひの花と此裏月あり

右四折合テ百員也

初ノ二折と五十員ト云

四十四法

百員の初折ト名残の折ト合テ四十四句あり

右二折ニ月三ツ花ニツ法百員の〜

七十二候

百員の初折ト二折ト名残の折ト三折合〜

右三折ニ月五ツ花ニツ法百員の〜

源氏法

初表	六句	内	五句	月	
同裏	十二句	内	七句	月	十一句ノ花
二表	十二句	内	十一句	月	
同裏	十二句	内	七句	月	十一句ノ花
名残表	十二句	内	十句	月	
同裏	六句	内	五句	月	

右三折二月五ツ花三ツ哥仙ノ法のどくし
哥仙二折共四句をくくるとのなり

米字 八十八句

初表	八句	内	七句	月	
同裏	十二句	内	七句	月	十一句ノ花

二表	十二句	内	十一句	月	
同裏	十二句	内	七句	月	十一句ノ花
三表	十二句	右	同断		
同裏	十二句	右	同断		
名残表	十二句	右	同断		
同裏	八句	内	七句	月	
右四折	月七ツ花	内	七句	月	
	四ツ花				

首尾

哥仙	初表	六句	五句	月	合テ十二句スラ云
	名残裏	六句	五句	月	
百員	初表	八句	七句	月	合テ十六句スラ云
	名残裏	八句	七句	月	

裏白 六句カ 表斗リスルヲ云

面白 十二句カ 裏斗リスルヲ云

三物 癸句股第三ヲ三句スルヲ云

月 癸句の振う身とくに初表の時ハ初表の月也云々

花 癸句の振う身とくに初表の時ハ初表の月也云々

但し一正也ハ身とくにハすべし
曰るより初表の内云々云々

發句 癸句の振う身とくに初表の時ハ初表の月也云々

同 祚祇多々ハ振も祚祇ト一有り無し

同 尺数多々ハ振も尺数ト一有り無し

同 連懐多々ハ振も連懐ト一有り無し

同 引多々の時ハ身とくに初表の時ハ初表の月也云々

會席 文卷に祇多々を祚字通と振多々ト一連中より合

連句 多々ハ身とくに初表の時ハ初表の月也云々

一 順トハ

教のより名席の人数有は第一句ツをくわゆるをいふ

再 遍トハ

右の人数の句又一毎くははをいふ

聯トハ

春夏秋冬之句ツ及冬二句ツ、意之句等は既
済くをいふ

吟 声トハ

句を考ふまにをいふ

回 嶋トハ

春人より二句も三句もは、あてするをいふ

獨 吟トハ

かせんをも百人をも春人よとすをいふ

両 吟トハ

は〜二入とすをいふ之吟み吟もは〜をいふ

前 句トハ

我一考すくのをいふ

遅 吟トハ

句作うのかそをいふ

秀 逸トハ

せられて能くをいふ

巻 頭トハ

巻のよをいふ

添 削トハ

一巻の点を宗匠へをいふ

即 点トハ

不迷点の出来をいふ

批 言トハ

句の所き所を宗匠よりこうめをいふ

凡

乙

訓に四ツ有りのハ音も四ツ有之 百子万のこゝり刻音

名所 イイゴ 國名 クニナ 在名等 ザイミヤウ 或ハ官名 クニミヤウ 苗字 メウジ 人の名 ナノナ たり呼と死ハ

名所 ナシ あらハ水辺山類 ミヅノヘ あらハ水 ミヅ けの躰 ミナ と道之

時々の草 クサ 木葉 キハ 句段 クワダ 喰物 クヒモノ にあれハその季ハ持あから植物

とのぐら ウラトリ 魚鳥獸 イサトリ あり喰物 クヒモノ にあれハ其季ハ持あから生れ

のぐら モシ 紋所 モン 或ハのち ノチ たるも タ 季ハ持あから躰 ミナ へのぐ

ら ラ ち チ ち チ ち チ

秋奠 アキノシ 二度 ニド 秋 アキ 後 ノチ 秋 アキ

親父入 オヤジノイリ 秋 アキ 二度 ニド 春 ハル 後 ノチ 秋 アキ

雛 ヒナ 三月 ミツキ 二度 ニド 立れ タテ 春 ハル 後 ノチ 秋 アキ

峯入 ミネノイリ 春 ハル 二度 ニド 秋 アキ 後 ノチ 秋 アキ

古代 コノコ あり初表 ハジメ の内 ウチ 嫌 イヤ ひ来 キ る物 モノ の中 ナカ に古人 コノコ の名 ナ の事 コト 聖賢 セイケン
公家 クダ 武家 ブケ 或ハ歌人 カシラ 儒者 ジュシャ 医者 イシャ 町人 チヨウジン 百姓 ヘイシヤク 能役者 ネヤクシヤ 職人 シヨクジン 等 トナリ
の神祇 カミ 祝教 イハヒ 憲無 コトナシ 常述 トコナシ 懷衰 イハヒ 傷等 イハヒ あり アリ 古 コノコ の名 ナ

表の内苦一かひ尤在^ると^す一同名所の事神祇釈
教意無常述懷等にある^る名所並國名町那等表乃
内苦か^ひ旅体右同断

野々口立甫夜話云七十二候花信詩抄等之季俳諧取捨
有事也詩歌と引も同断七十二候に蜻蛉鳴ハ夏詩ハ鳴蛙
秋ハあれも連俳もに春ハ和哥に牡丹春花信棟春これ
らと連俳もて夏之此^はもを^あは^はと詩歌候を引或は

詩書等^の異様ある季を見出^し俳諧を錯乱すべ^し
當時の四季正月元朝より極月か至細々委^く此書に記置
あり不通成^る季不用

餘^{ヨキヤク}真の事古来^のあり^きあり^きあり^きの^{ころ}より^うる^る百員乃^{アゲ}奉
句に發句あり^て常の折あり^て句を繼て表八句裏十
四句月花并太無等常の百員の法式少も違へ^し
百員結ひ次て續二百員或續二百員と呼也

百員に一句の物も餘真か又出ん

但余真くく二句去三句去の物ハ式に本五句去七句

去面去折去物とあく三句去とす

俳諧手挑燈

○四季之部

春

大皞帝ダイコウ勾芒神コウマウ蒼天

東君トウキョウ

詔ミコトノコトワザ光ミツ

夏正カ

正月

大簇律ダイソク

立春節リシュン

雨水ウスイ中

初陽

青陽

孟春

陬月ソウ

睦月ムツ

端月タン

初冬月

いし井月

左所月

元日	元朝	元旦	元三
雞旦	改旦	樹氣	聖節
履端	年始	年頭	改年
甫年	新正	三朝	三始
三元	復新	新春	子代の妻
君の妻	徳代の妻	四方の妻	花の妻
君の妻	くふの妻	けさの妻	きりの妻

あけむの季	年まうへる	四方拜	腹赤贅
朝拜	朝賀奏賀奏端群臣	天子東西南北と	ハラカニニ
屠蘇	天子ハなまり後片も終る	井開	祇園削掛
國栖笛	和瓦吉野の古民を踏ふ様をなす	年徳神	年神
年徳神	年神	年棚	年棚

三

二

福鐸	押鮎	惠方	標	かんと祝	穂長	太箸
惠方棚	注連飾	初鷄	俵子	大服	田作	裏白
掛鯛	年男	齒朶	初霞	にー肴	鏡餅	開豆
福藁	庭竈	数の子	齒固	初空	喰積	初曆

曆開	御慶	門松
かざりつら〜 但飾〜つら〜 元々ハ	雑煮 ワリ〜 大こん 芋路〜 おかし〜	このさ〜 具〜 びこが
おさ〜りハ 元々の	い孫法 <small>むハ元々の</small>	きこそ初 <small>若後を</small>
福壽州 <small>元カ州</small>	い孫法 <small>むハ元々の</small>	弓始 <small>射的初</small>
宝船 <small>補ハ元目く</small>	書 <small>吉書</small>	初夢
万歳	福引	

六餅 同上 厄神系 十九日八幡系詣りて藤民が来の
れとりてあてぬるあり

吉田清枝 五日 初天神 廿五日 初不動 廿八日 繪踏 西風あり
切支丹を

遊行札切 正月十六日 閻広まあり 十六日 後の字入ては
一月小切一日の内小板を

梅 ころのむ まつぎ系 考 松系 白ひ系 考 梅
好又木 湯首梅 丹 梅 柳 紅梅

鶯 今なき系 考 鶯系 考 鶯系 考 鶯系 考
考 鶯系 考 鶯系 考 鶯系 考

柳 考 柳系 考 柳系 考 柳系 考
考 柳系 考 柳系 考 柳系 考

霞 八重こうけい
かほくの夜

雪解 雪ききる 雪ききる 雪ききる 雪ききる
ゆききる 雪ききる 雪ききる 雪ききる

松の花 松の花 松の花 松の花
松の花 松の花 松の花 松の花

若草 初草 初草 初草 初草
初草 初草 初草 初草

山葵 山葵 山葵 山葵
山葵 山葵 山葵 山葵

春鷹 白尾 継屋 朝鷹 泊山
朝鷹 泊山 朝鷹 泊山

遊糸 陽炎 野馬 系 系 系 系
系 系 系 系

佐保姫 姫 姫 姫 姫
姫 姫 姫 姫

風光 陽気のせきさき
陽気のせきさき

百千鳥 百千鳥 百千鳥 百千鳥
百千鳥 百千鳥 百千鳥 百千鳥

三

鹿尾 ヒシキ

薑 クダマ

膏雨 カウ まのる

老あらしぬ

けしとつふ

鶯菜 ヒ

干鱈 ヒ

白魚 目指

老あらしぬ

椿 た代はか核とせえんを雜

齋 ナツナ

酢蛤 スガタリ

東風 コチ 和

刈妻

青饅 アラメタ

草萌 モエ 下り

今年 コトシ 去年

春麻氣氏 マケテ か

二月

夾鐘 クラシヤウ

驚蟄 ケイチツ

春分中 仲春

陽中

如月 シヨ

令月 レイ

衣更着 キサラキ

梅見月

小草生月 初花月

中和節 朔日

吉野の餅 同上

春日祭 上申

水間祭 初午

行基祭 二日

遺教經 九日

常樂會 十五日

柱炬火 十五日

比良八講 八日 祇園八講 同上

浅間祭 廿日

北野御忌 廿五日

道明寺祭 同上

踊念佛 時宗

文宣王 顔子二座 九柱飾之

二月堂の行

初午 初日 十五日 マテ

井戸ありの日の目あり候とよぶを井子

初午 初日 十五日 マテ

くろくふ 赤坂ホと佐清

大改定 献生子

比日藝事 社翁雨

薪の能 七日より 十日まで

左ちうそ 舟を脱はりしそ 社と勤むるを祈り也

彼岸 中より十日め時正とも云

積塔 十六日 琵琶法師修ス

列見 十一日公卿 弁 少納言

社日 春分前後 後の戌日

治聾酒 社日に飲せ

涅槃會 十五日 修せん像

彼岸 後のむらんはあり

涅槃會 十五日 修せん像

積塔 十六日 琵琶法師修ス

忌日 ちうは 比所 宇の 産 比の

蕨 子 蕨 子 蕨 子

蛙 くるる 井の 蛙 蛙

水葱摘 花ハ 出 替り

焼野 畑や 畑や 畑や

蛇穴 とい 流る

蝶 乃 け 羽 の て ふ 蜂 似 我 蜂 似 蜂 似 蜂 似

帰鴈 夕 夕 夕

燕 雲 鳥 雀 雀 雀

虎杖 草 草 草

初雷 中 初 雷

燒中 鳥 鳥 鳥

蛇穴 とい 流る

苗代 種 井 種 浸

かぶるかぶりもの

紫ムラサキ

五加木ウコギ

麻アサ

大根の花ダイコン

虹ニジ

若紫ワカシ

餅花煎

鳥の巢トリノネ

銀杏の花イチョウ

彼岸櫻ヒナシロ

花と待ハナとまち

初花ハツハナ

馬刀ウマタテ

角落鹿カクノカ

みよしのむ

二日灸ニヒノヤキ

菜の花ナノハナ

かつら

蒲公ハスガ

狗脊イヌシ

杉菜スギナ

枸杞クキ

胡葱アサツキ

韭ニラ

えろと

孕鹿ハラムシカ

接木ツキキ

野蒜ノビル

蒸鱧ムシカレイ

鳳巾イカサホリ

鯉ニシ

孕雀ハスジ

接穂ツキホ

引鶴ヒキカ

田螺タニシ

蒜ニンニク

雀の子

引鴨ヒキカモ

三月

姑洗コセン

花飛

律清明リツ

竹秋

穀雨コクウ

宵月

中季春

禊月ケツ

中和

弥生

いやはひ 様月

上巳 三日 桃旦重三元巳
上除 柳の芽供

雛大裏雛 紙の形 柳うらり
あまのき弦
羽觴飛 川上より垂
流来る 内は成

沙干 恒古か多 雨川あり
拾りて 古佐の海 凧をる
鶏合 鬮を共

寒食 二月の節 煮の粥
二月の節 煮の粥
已の日に 移 上の巳日 月辺り
瘦神除の 移あり

須广の 移 源氏 經供養 二日 天王寺
高雄法華會 十日

やまの 善道寺忌 十四日 壬生祭 十四日ヨリ 壬生の仏
廿五日マデ 壬生の猿

嵯峨大念佛 十五日

千本念佛 寺中のすれ

御身拭 十九日 汗を拭く
あまのき弦の 汗を拭く

人磨忌 十八日 御影供 廿一日
高雄女詣 廿日

吉野お會式 十日 浅草祭 十八日 三社
江戸浅草

梅若詣 十五日 江戸 順の峯入
道のすそ 八社 入と 秋一年二夜

阿蘭陀 入津す

鞆 鞆 フラコ ヌサリ 志くせん のたれ 半仙のたれ もいふらに

葉櫻 葉柳 辛夷 長春 犬櫻 東菊 春菊

東の花 李の花 木蓮花 九輪草 金錢花 金鳳花 檜の花

竹の秋 小手毬 丁子草 母子草 茗荷竹 仙臺萩 小梅の花

林檎乃花 杏子の花 揚梅の花 通草の花 蘓枋の花 春蘭の花 木瓜の花

馬薊 櫻鯛 櫻貝 柳籠 小鮎 八十八夜 山吹衣

若菰 上リ蓑 鷹の巢 呼子鳥 櫻魚

五形 柳葉魚 郭公巢 雪ふ入る 炉塞 三月尽

小米花 桜うらひ 鳶の巢 川跡踏 火燧塞 雪止衣 雪止書

春にゆく、春の足、春のき、春にふる

春の湊、ゆく春、春に多結、春に過て

春と情、夏をき、夏と待、夏と隣

夏、炎帝、帝祝融、神昊天、朱明、蒸砂

躡蹟

四月

仲呂、立夏、節小滿、中正陽、孟夏、余月、乾月、初夏、首夏、卯月

卯花月 花名残月 鎮月

硬衣 百白重 卯のむ衣 春にこれ下ケテ 拾 拾ぬき 終日

孟夏旬 一日天子より群臣の庭より各府の祭あり 筑摩祭 一日

獨あまのふに居つて 雨の雨の氏子の女を撫り 男の教付と

灌佛 八日 佛生會 竜花會 湯あき 佛

神衣祭 十四日 麻積の連との中人麻とて 賀茂祭 中西 国祭

葵祭 三月の葵 あかひのうらりりあつら 日光祭 十七日

地主祭 清水上

和歌祭 紀及八瀬祭 辰日

戒壇堂開帳 八日

嵯峨祭

水屋能 三日四日五日 南良春日

當六法事 廿日

中将姫 忌日

千團子 十六日三井寺 鬼子母神詣

花供 廿日 大町の

夜夜と 死努

神祭 掛た林さん

三枝祭 南川の

土塔會 寺至

松前渡 移ハ 鷹埭入

毛とかわるるふ

郭公

子規 時鳥 燕 鶯 夜たきき 心ゆくまゝ 杜宇 杜鵑 橘鳥 くのひき 蜀魂 四手の田長 勸農鳥 不如帰 無常鳥

蝙蝠

蚊 蚊喰

蚊 蚊喰

螢

螢の光

卯の花

卯の花

苜蓿

苜蓿

杜若

杜若

葵

葵

橘

牡丹

花王

花王

芍薬

夏木立

青麥

青麥

鮎

短夜

短夜

大矢数

青東風

和清の天

新茶

煮酒

玉巻草	玉巻芭蕉	古茶	蘭の花
罌粟花	綿種蒔	花柚	鴨足草
梅の実	ぬきり	薔薇	苔花
桐の花	あちあひ	岩藤	柿の花
茶	うはな	一八	手毬花
風車	あちあひ	鳶尾	わらわら
さぶら	苜蓿の臺	踊花	竹の子

岩梨花	黄栌の花	若楓	箏
名の花	石薺の花	蕨椿	すゝのこ
蓮若葉	枳殼の花	蓼	きしりのむ
蓮のまゝ	厚朴の花	落	利根草
蚊帳	椶櫚の花	紫蘓	紙帳
とくろ	柑子の花	檳柑の花	九年母の花
橙花	金柑の花	雲州橘花	

百草と戦タケ勝負イロクの事と合カ

引おろしとひさしス水馬ス五日あやせとさる

あひらきア印地打イ

住吉御田植ス廿八日

伊勢山川祭イ八日山田御田植イ日上

有無アの日イ廿五日日終日御田植イ

賀茂ケの競馬イ五日ら生玉流鏑馬イ五日

帷子カ裕帷子イ初夏ハ夏至シ入梅ニ

取勝講サ清涼殿イ黒鴨ク鴨カ鴨カ鴨カ

青梅ア梅イ梅イ梅イ梅イ梅イ梅イ

羽ハ羽ハ羽ハ羽ハ羽ハ羽ハ羽ハ

雌メ雌メ雌メ雌メ雌メ雌メ雌メ

五月雨イ五月雨イ五月雨イ五月雨イ五月雨イ

虎ト虎ト虎ト虎ト虎ト虎ト虎ト

鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ

黒鴨ク鴨カ鴨カ鴨カ鴨カ鴨カ鴨カ

鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ鶺鴒ウ

雌メ雌メ雌メ雌メ雌メ雌メ雌メ

五月イ五月イ五月イ五月イ五月イ五月イ五月イ

帷子カ裕帷子イ初夏ハ夏至シ入梅ニ

取勝講サ清涼殿イ黒鴨ク鴨カ鴨カ鴨カ

百合 あやめり 姫ゆり さやめり
さうごめり かのこめり

田植 あきさき 子乙女
あきさき 田うさ

早瓜 あきさき 白あり
あきさき 子あり

鏡普草 うさめめさ
あきのめめさ

未摘花 あきのめめさ
あきのめめさ

蝸牛 あきのめめさ
あきのめめさ

照射 あきのめめさ
あきのめめさ

麥刈 あきのめめさ
あきのめめさ

覆盆子 あきのめめさ
あきのめめさ

紫陽草 あきのめめさ
あきのめめさ

忘草花 あきのめめさ
あきのめめさ

樗 あきのめめさ
あきのめめさ

鯢狩 あきのめめさ
あきのめめさ

入梅松 あきのめめさ
あきのめめさ

石菖 あきのめめさ
あきのめめさ

夏菊 あきのめめさ
あきのめめさ

枇杷 あきのめめさ
あきのめめさ

若竹 あきのめめさ
あきのめめさ

天蓼 あきのめめさ
あきのめめさ

天南星 あきのめめさ
あきのめめさ

早松茸 あきのめめさ
あきのめめさ

早初茸 あきのめめさ
あきのめめさ

生胡桃 あきのめめさ
あきのめめさ

青山椒 あきのめめさ
あきのめめさ

南天の花

ひそめ花

さあめ花

しほめ花

あきのめ花

藻の花

藻と刈

藻川舟

萍の花

菱の花

樞の木焼

天南星

早松茸

早初茸

生胡桃

青山椒

鯢狩

照射

未摘花

蝸牛

鏡普草

早瓜

田植

百合

茄子 ナスヒ
刈葱 キキ
根芋 ネイモ
若草 ハキキ
青田 アヲ
胡瓜 キフリ
繭 マユ

栗の花 クリノハナ
茨の花 アザミノハナ
榊の花 ササキノハナ
洗心 センシン
田舎取 イノケ
稗時 ヒエ
和時 ワキ

桑の實 クワノミ
花菖蒲 アサガハ
朝露草 アサロウソク
青小豆 アヲマメ
粟時 アヲトキ
荏時 ニエ
玉簪 ギョウウシ

六月法 ムツハツホウ
花柘榴 サクラノ
和布と刈 ワフとキ
青さく アヲ
馬齒草 ウマバネ
胡麻時 ゴマトキ
そく ソク

榴花 リウカ
藻打 ソウダ
鮎 アユ
藜 アヲ
菟 ウ
黒 ク

蚊帳州 カヤツリ
水麩 ミヅウ
水馬 ミヅウマ
螻蛄生 ロウゴ
水鳥の巢 ミヅトリノネ
蓴 テウ
白 シロ

合歡の花 カウカン
水鱧 ミヅハム
水雞 ミヅトリ
蛇衣脱 ヘビキヌ
鴨の浮巢 カモノウネ
鳧の羹 ハツノシ
白 シロ

あゝめ刈 アヲメキ
干鰓 カンソウ
常 トコ
蟬の初時 セミノハツトキ
蛆 ウジ
毛む モム
沖のあけ ミヅノアケ

六月

林鐘律 小暑節 大暑 中季夏 瓜期

旦月 遯月 水無月 風待月

鳴神月 常夏月 陽氷

賜氷節 一日 氷の貢 氷室 氷餅祝 日

一夜酒 麻地酒 麴粉酒 富士詣 一日ヨリ 坊離

六月會 四日 祇園會 七日 御躰の御ト 十日 神祇友の友人

いふくのみを巻つゝる 降りの系十五日にあり

津島祭 十四日 舟を系繋りて抛新 勢田祭 十四日

嚴嶋祭 十五日 竹生島祭 十四日 博田祭 十六日 江戸山王祭 十五日

御手洗詣 廿日ヨリ 鞍馬竹切 廿日 伊勢祭 礼 十六日

愛宕千日詣 廿四日 大坂座祭 廿二日

賀茂水無月之能 卅日 橋立祭 廿五日 住吉御祓 卅日

唐崎祭 卅日 施米 東山北山西山をくのみさのたつたるを傳の

小蠅を以神 大さのそはゝを鬼に方たるをく

大枝 卅日 後川

夏よりくくすくくくくくの後
ゆふこの後けくひ系

形代 川後まんの形を似り川
あじ良縁をまじりて

痛とくくくくく人 撫物 日
これとくくく後

夏神樂 ころもくくく

中より祭あを常し市役の縁成り
後しと帝とを儀しきりて

立秋の初の庚未 涼 月涼し涼涼
伏しと伏し

京四条の涼 七日ヨリ 川の舟ふりて
十八日テ 舟を浦に泊りて

川社 夏後 川をうらぬ
舟とちりて

菅貫 板之 具也 茅の輪 ちりて

鎮火祭 世日ト部氏のゆひ
火除除のまじり

雷鳴の陳 雷あまるとあまれを
大物以下辺来の次物

三伏 夏まの涼身との庚の日と初
伏しと身との庚と中伏と

座頭涼 十九日

紅の涼 十九日
世日マテ

江戸兩國橋の涼 船ゆえん 扇形船
五月六月夏夜涼上に群集し

嘉定錢 十六日 暖帳天宮階統の所定のか定錢十文を以
此日辨供を役くす例とある

簞 浮蘭産 脚馬 抱竜 泉殿 滝殿 汗 汗子ぬぐひ
竹夫人 涼の具と

扇 五明くみり 雉尾扇 扇車 土用干 虫干 團 団 南島うらむ

心太 ころも 井 井戸邊大屋に
井戸とくくく

清水 汲むまのくくく 麻 麻引 青苧 夏引糸
清水とくくく

楮の花 紙中きき系 瓜 瓜 瓜 瓜
紙に成る

青蕃椒	蒲の穂	白麻刈	藍と刈	菅と刈	藺と刈	菱の花
青蕃椒	流りひ系	麒麟草	昼顔の花	竹の皮抜	奈良漬	醬造
水飯	葛水	藿乱	風薫	温風	日傘	日盛
洗ひ飯	砂糖水	香薷散	水引粉	振舞水	麻羽織	麻頭巾

蝸	赤草	林檎	鷹羽	青鬼灯	干飯	夏枯草
早桃	澤泻	杏子	杏	鳥糞搗	道明寺水	茗荷の子
楊梅	風蘭	河竹	杏	煮冷	洗鯉	洗鱸
眼皮	凌霄	李	鷺草	雲雀鷹	金龜虫	海月取

鯖釣

夏の別

夏果る

夏の限

夏とて

秋を隣

秋をき

とぬ秋

煉と符

秋

少皞帝

蓐收神

爽頼

旻天

白蔵

金商

七月

夷則律

立秋節

處暑中

孟秋

桐秋

初秋

首秋

明景

桐月

文月

蘭月

女郎花月

七夕

七日御節會

硯洗机洗七度喰

星の手向詩哥連俳七夕會

二星

彦星と織女

牽牛織女

七夕男七夕星の契

あまの川

銀河銀浪

銀漢

の川

星合の濱

かさねの橋

雁鵲の橋

紅糸の橋

妻迎船

乞巧奠

庭のまき

乞巧針

七孔の針

七種の船

菖蒲の舟 女舟 若舟 檣舟 櫓舟 帆舟 楫舟

七箇の池 七箇の水に
星を移し

飛鳥井家七夕の鞠 アスカ

池坊七夕の立花 イケノボウ

荷前の使 イサキ
天子より諸廟へ
勅使立

文殊會 モジユエ
八日 六道参 九日

清水十日詣 日十 楨買 六日系のたぐり
廻り買掛り飾

盂蘭盆 ウラホン
盆供 諸寺施餓鬼 セカキ
一日より
十五日迄

梶の葉 七夕の夕は葉に
ゆき向ふ

御門跡篝花 御門跡
篝花あり

摂待 門下
此東の人よりあり

逆の峰入 ギヤク
本山七月
當山八月

聖霊の迎鐘 ミカヒカ
同上

焰魔参 エンマ
十六日

盆市 聖霊蓬
聖霊竹

苜蓿 土器
手向物品

ひん火焼

靈祭

聖霊棚

王棚 棚經

根芋 枝豆 青さけいぐらう
粟穂 稗穂 稻穂 瓜の馬 茄子の牛

青柿 青梨 青桃 煎尾草
箸 青櫃

燈籠 きりり
あけごころ
花ごころ
舞ごころ

送り火 鹿ヶ谷ハ
大文字
愛宕
鳥井

三井寺女詣 三井寺
七月

十五日多福丸ハ
女人標製

燈籠踊 トウロ
長谷

夏書納

經木流 キヤウ
キナカ

題目踊崎 モクフ
松ヶ

中元 チウゲン
七月
十五

盆の法水入

伊勢山田を所々乃

室物 イキ
アツカ

扇置 アヒキ
カ
持ル扇

生身靈

父母持る人達の飯
刺詰るる飯

秋の胡蝶 コテフ てつりふを結ひ

秋津虫 アキツムシ こんがうやんやん

松虫 マツムシ 虫撰 ムシヒラミ 虫合 ムシアヒ 虫籠 ムシカゴ

秋風 アキカゼ 律吹 リツフキ 初風 ハツカゼ

鳥屋出の鷹 トリヤデノトカ 鷹の山別初を初

露 ツユ 初露 ハツツユ 夕露 ツキツユ

鳩吹 トビフク 鳩の吹を初

新涼 シンリョウ 初涼 ハツリョウ

早稻 ワセ

初て涼 ハツテリョウ

今秋の秋 イマアキノアキ

初て涼

冷酒 レイシュ

青蕎麥 アヲソウバク

冷麥 レイマキ

初て涼

冷酒

青蕎麥

冷麥

ぬる麦 ヌルマキ

あつ麦 アツマキ

常山の花 ジョウサンノハナ

西瓜 スイカ

木瓜の実 ゴケノミ

鈍豆 ノボロマメ

くさねの虫 クサネノムシ

番椒 トウカラシ

桃の実 モモノミ

犬子艸 イヌコノクサ

小車花 コクルマハナ

柳散 ヤナギチリ

黄柳 ワウリョウ

芭蕉 ハセウラ

茗荷の花 メイカノハナ

桐 キリ

茅のむ チガハ

みり系 ミリケイ

鬱金の花 ウツキンノハナ

楸 ヒサキ

毘麻 ヒマ

焼米 ヤキコメ

やいばら ヤイバラ

蟻 アリ

ちつこ

垣豆 カキマメ

すまみ系 スマミケイ

花火 ハナビ 正花 マサハナ

槐花

綵瓜

觀音草

茶調虫

夕貞別當也虫紫鳶

八月

南呂律白露節 秋分中 仲秋

壯月

桂月 竹春 蛩月 葉月

鴈来月

秋風月 月見月

田面祝

田実祝

八朔繪行畧 絲雀

天中節朔日 秋社秋分近き戌の日なり 五穀の神を祭る

堺天神祭三日

北野祭四日

白鬘開帳五日 八幡祭十五日 岩清水 放生會十五日 十六日

阿野津八幡祭十五日 伊勢

豊浦八幡祭長前

鶴岡八幡祭

宇佐八幡祭豊前

箱崎八幡祭筑前

志賀八幡祭日

深川八幡祭江戸

板鼻八幡祭上州

菅大臣祭

司召十一日 系官の六位以下を以て 衆爵とてくふと云 菅大臣祭

死活杖乃祭いのかすまの南極星の社としてゆくはむうし形々の司 刑獄刑法とてめいひふるを刑をさぐるの死罪の

老と長と夜よ
まろくろり
秋奠 おきまろり 式法
三月に出
西院祭 廿日

名月 十五夜 三五夜 名高き月 芋名月 ことよひ月 新月

良夜 夕暮の月 此外月 異名月 部ニ悉シ

駒牽 駒牽 甲斐の駒牽 十七日 武蔵の駒牽 廿七日

龍田姫 秋のまをと深出と抄
造化の神ニ非神祇ニ

いあとよせろ 鶴鴛ヲ云 後の彼岸 蛇宛小

小鷹 小鷹狩 鷹ハ菓カシ 見鶴 モロカハリ 小隼

雀賊 鷹網 黄鷹 青鷹 モロカハリ 毳とられ鷹

ひらりり鷹 鷹打 たのこら 鶺鴒 ウツクカ 鶺鴒 うぐくし

鷹 うぐくし 後 うぐくし 一に うぐくし 秋 うぐくし 秋 うぐくし

巴鳥 うぐくし 四十雀 うぐくし 目 うぐくし ひ うぐくし 川 うぐくし

鶺鴒 ウツクカ 斤 ウツクカ 網 ウツクカ

鳴 ウツクカ 川 ウツクカ 鳴 ウツクカ

小鳥渡 ウツクカ 鹿 ウツクカ 小鰯 ウツクカ

鮭 ウツクカ 小鰯 ウツクカ

澁鮎落鮎

下築くつれ築

うゑん築

薄ホ 名のすき

ちりほきき 尾花りく尾尾おちり

葛ツツ すのむ 着の種ある

薄紅葉

蓼の錦ハハ

月草ツキクサ 露州ロウシュ 花紫ハナムラサキ たんぐ

志シとみチ 紫苑ムラサキ

鴈来紅ガンライコウ 兼雞頭ケンケイトウ

藍アイの花ハナ あいの花

茴香ウイキヤウの實ミ

のし瓜ノシウ むつと 錦文字キンモンジ

蒲萄フドウ あじう 柳

宇治ウチの花園ハナヅクラ 草花也 非正花

稲乳イネノチ いぬちのちのち稲と移る

稻イネ いぬちのち

八束穂ヤチムネ 稲の穂

新米ニウメ あじう

秋アキの田タ 田の毛

二百十日ニヒトツチ 二百十日目

東呂子トウロ 東國

案山子アノヤシ かき 麻

木綿取キワタ りん

芋イモ いん

菜種ナシ かき

牛房引ウシボウ かき

栗川クリガハ かき

薯蕷堀ヤマイモ かき

粟川アヲガハ かき

栗川クリガハ かき

栗川クリガハ かき

栗川クリガハ かき

栗川クリガハ かき

種瓢箪

牡丹の分根

稗刈

種夕顔

紫れ色付

稷刈

種南瓜

とらやうり

芽萱

種茄子

とらやうり

薬堀

鳳仙花

曼陀羅華

茜堀

雞頭花

百部桂

鷄草

金剛草

蕎麥の花

野菊

百夜草

やうりめじ

鬼灯

鴨上戸

木犀の花

縷紅

若苳若

うすのむ

通草

木芙蓉

枣

ようりめじ

冬瓜

大豆引

小角豆引

三七花

江鮭

かとうり

太刀の魚

竹の春

初汐 八月の大汐

野分 八月の大風

はなよめ

花壇 草花 非花

砧 衣あきぬあしあし

九月

無射

寒露 節霜降 中季秋

玄英

季商

紅樹

菊天

素秋

舞射

残秋 未秋 玄月 晚秋 涼秋

菊月 陰形 抄秋 あゝの月 種々の月

のむの月 木深月 木末の秋 小田刈月

重陽の宴 九日重九菊且菊節句菊酒重陽栗且栗節句

九日小袖 菊重衣 紅葉衣 後の離れものもある

豆袋をもち初秋 不堪田の奏 七日乞の徳玉田乃 換七の所を

桂宮相撲 八日 泉涌寺舍利會 八日

醍醐祭 九日 能あり 御香宮祭 九日 伏見 鞍馬祭 廿日 貴布祢祭 九日

生王祭 九日 大坂 四宮祭 九日 大津 下鳥羽祭 十日 例幣 十日

白川祭 十日 岩倉祭 十五日 北山 栗田口祭 十日 一宮祭 十五日 河内

岡崎祭 十六日 東山 木幡祭 廿五日 鹿谷祭 廿四日 逆髪祭 廿四日

北山祭 廿六日 鳴瀧祭 廿八日 津村祭 廿七日 津国

天王寺一条會 十四日 太秦祭 廿日 小倉祭 十五日

八幡花の頭 廿日 天満鑓流馬 廿五日 大坂

吳服祭

十七日 津国

波利祭

高辻室町

度會新嘗會

九月十六日 十七日

桂川乃江後

伊勢御遷宮

十六日 廿年 目御社立替

夜分也

神田明神祭

十五日

日蓮御難代餅

十三日

住吉の市

十日 升の市

住吉孔相撲

同上

後の月

十三夜 二夜月 豆名月

菊

菊合目精 更生濡路

栗名月

月のぬれ

承和菊

黄菊

こより菊

醉楊妃 羊歡 回峯

女郎 周盈

オリ菊 金目貫 白菊

黄菊 紅菊

袋菊

大般若 弟艸 翁艸

砂金 毬菊

残る菊

残菊の宴

承和菊

黄菊

紅葉の筏

色見艸

紅葉の船

紅葉の船

名木散

秋

楓

銀杏

柚

秋

柿

柿

柿

柿

柿

柿

うづき

ひよん

ぬんとう

霜踏鹿

新蕎麥

葉薑

狼獣と祭

柘榴

胡桃

露霜

夜寒

紅葉鮒

檀

榧

苑豆

漸寒

露寒

冷ド

うも

櫟

柞

桐油の實

露時雨

将寒

長夜

お多

榛

萹

尾越の鴨

茵莚王

蔓梅嫌

新酒

番船

茶々輿祭

住吉れ神送

熊栗れ棚搔

薩摩芋

晚稻

新酒

番船

茶々輿祭

住吉れ神送

木欒子

梅嫌

櫓田

袋

番船

茶々輿祭

九月尽

何首烏

梅嫌

小瀑江鮒

袋

番船

茶々輿祭

暮秋

初氷

寒菊

鴨鷹

鰯

鰻

飯花

蕪引

葛かき

菊うら

落のり

茶のむ

冬牡丹

大根引

綿子

足袋

石落

山茶花

八手の花

菜ゆ

納豆汁

糸りし

ありすん

革羽織

冬木の櫻

枇杷の花

掛茶

水漬

あまのり

あがり

枯野

あまのり

川音の雲

月のあま

液雨

あまのり

鴨

あまのり

鴛

あまのり

風木枯き風の風

落葉

あまのり

霜

あまのり

初雪

あまのり

水鳥

あまのり

千鳥

あまのり

わぢむら

あまのり

生海鼠 きんこ

このころ

網代 あじろ

氷魚 ひよあじ

夜興引 ヨシフヒキ

妙音講 メウオンコウ

諸国座頭の祭也十月十四日一郡一の座頭仲間寄合官列とて一弁天妙音井

の尊像とくけ種々供物と備へ順番は平家おととをかり通夜す

十一月

黄鐘律

大雪節

冬至

中正

朔

霜晨

氷壯

星紀

畧知

芸生

宵氷

仲冬

盛冬

冬半

陽復

子月

鴨月

復月

霜月

天正月

霜降月 雪見月

朔旦冬至 サトトウシ

十月朔日冬至るれはりき十年のる

一陽佳節 カセツ

十月無陽の月より冬至より一陽来復

曆の奏 ヨシ

宮線と添 キウセン

系をひて日の

履 フミ

唐を嫁より

相嘗祭 アヒマツリ

住吉大神 宍師 鴨 恩智 意富 葛城

新嘗祭 ニイナメ

日前 右の神主官幣を請取行フ祭る

豊比明の節會 トヨヒアカリ

中辰今年の新米神

神奉り 天子も召れ臣

殿上の淵醉 テンシヤウ

水仙 金盞 銀臺

雪の下

鮒

冬至梅

胡蘿蔔引

凍

駈

太山檜

薑引

はるあは

鷹 かゝこころを 鷹狩 鷹狩

名さ ひ

偷立書 なり

ちか

乃

ぬすま

退羽打

才鷹 鷹狩 かゝる鷹 鷹狩 鷹狩

名さ

偷立書

乃

根木の根と片はくしてつらむる

鷹妹 女鷹

夏左毛 鷹の致尾と

そのもの花をくくく終日ゆくはくそ

枝よはくくくく

始て雉とくくく

鷹の鳥とくく

燎 たぐく

羽あは 鷹

屋形尾 鷹の尾の

ぬく 鷹

鳥柴 鷹

鷹 仁徳天皇の御宇百濟国より

里神樂 禁中の外れ神樂ハ

神楽哥 外れ

日

加々神風カカシノカゼ 早哥ハヤウカ

徳子トクコの足アタリの物モノありと云ふ

小前張コサエハ 志シのやヤ けケのちチ

御火焼ミホタキ 俗ソコのちチのけケといふ徳子の

新玉津島御火焼ニウタマツシマミカエ 十月十日

三島酉ミツシマウの市シ 十月申酉 伊豆

日吉臨時ヒヨシリンジ 中酉

採物哥トリモノウタ 排風ハイクのみミてテらラのノ杖ツヅ登ノ

大前張オホサエハ 志シのちチのけケといふ徳子の

星ホシ 志シのちチのけケといふ徳子の

宇賀祭ウカマツリ 廿日 山神祭ヤマカミマツリ 同上

賀茂臨時祭カモリンジマツリ 下酉 北祭

東三條御神樂トウサンジョウミカミノカガ 下卯 大原野祭オホハラノマツリ 中 宗像祭ムネガタマツリ 上卯

山科祭ヤマナカマツリ 上巳 平野祭ヒラノマツリ 上申 春日祭カスガマツリ 上申 松本祭マツモトマツリ 中卯

當麻祭トウママツリ 中卯 卒川祭ソグヅガハマツリ 上酉 梅宮祭ウメミヤマツリ 上卯 當宗祭トウサネマツリ 上卯

中山祭ナカヤママツリ 上卯 松尾祭マツオマツリ 同上 吉田祭ヨシダマツリ 中申 日吉祭ヒヨシマツリ 同上

園韓神樂リョウカンシノカガ 中丑 大呂律オホロリ 小寒節コサムセツ 大寒中オホサムナカ 殷正インテイ 季冬キトウ

十二月ジュウニグヒ 抄冬シヨウトウ 師走シラス 臘月ロウグツ 除月ジヨウグツ 極月キョクグツ

新月 残冬 三冬月 梅初月 春待月

乙子孔朔日 乙子の

川浸餅朔日 臘八日

温槽粥 臘八日

事始 関東八八日 上方八十三日

御髪上 下午日 天子の御髪を焼く

着駄の政

天智天皇御國忌 三日

佛名 十九日ヨリ 廿日マテ

加法多弥 天子より仏名の

師走 大寒の日禁中四方の門に

陰陽師これと立ル也

土牛童子の像と立ル

大寒の日禁中四方の門に

相梨乃勧盃 津のふらぬの酒と

寂勝寺灌頂 十五日

大徳寺開山忌 廿三日

寒垢離

寒念佛

寒曝 サラシ

餅搗

箕和田鯉

餅花

黄鯰 ヤシウナギ

鶺鴒巢ふ

早梅

早咲梅 ハヤサキ

庭鳥つゝ

探梅

早咲椿

寒造酒 ツクリサケ

臘梅

室咲梅

孟宗竹

早椿

室咲椿

寒竹子

年忘

歳暮市

年取物買

煤拂

煤掃

古札納

星佛賣

年木樵

節季候

寶船賣

正月の飾物捨る賣買とよれを冬

曆元末

弓矢羽子板賣買

節分 立春の前日

吉田の大萩 節分

内侍所の御神樂 節分之夜

厄かどー 豆打

於指 鰯頭指

厄ち〜ひ

大原雜候寐

追儼 鬼やらの声

衣配

小晦日 大晦日の夜先祖乃

岡見

大晦日の夜 藁とさうらうの白に思てきたおぼれ

齋宮比繪馬 大晦日の夜

門松と〜とあむ

和布川之神事

長門国をとり大明神 海岸ニ社有

毎年大晦日の夜寅の刻に至りて漫々〜大

海〜しや四方〜りれ屏風を立〜〜〜海底平々〜り神主た〜ま〜り奉れ〜〜〜海の面波み〜〜〜荒海とあるよ〜

雜之詞

二季アララフと争アライ句ハ雜也

花紅葉ハナベニ

寒暑カシヨト結句

飛花落葉ヒクハト續句

又四時シイシ不断フツゆる物ハ雜也

松竹の落葉マツタケ

米

麥

豆

松の緑等

無名の虫ムナミ

小鳥コトリ

松マツ

桂カウラ

村雨ムラサン

薄茅原ウスチハラ

苺イチゴ

藻モ

虹ニジ

蓬生ヨモギ

神サカキ蛤ハマグリ

淺茅原アサチハラ

芦アシ

若葉ワカハ夏ナツ枯カ冬フユ

菅スガ

真蔣マコモ

旱ヒナリ

電イナヒカリ

家雲イヘクモ

清水シメツ夏ナツ結ムス

梅干ウメホシ

蓑虫ミサ

梅染ウメゾメ

玉虫タマムシ

梟フクロウ鷺サギ

山鳥ヤマトリ

都鳥ミヤトリ

鮒フナ

鯖サバ

鰯イサナ

鹽物シホモノ

鳥トリ同ドウ

鷹タカのノ時トキ

野鷹ノタカ

離鷹ハナタカ

離鶉ハナレウ

鳴ナリのノ羽ハ盛セ

梅壺ウメツボ

梨壺ナシツボ

桐壺キリツボ

藤壺フジツボ

鴨カモ杏コウ

舞扇マヒアヒ

礼扇レイセン

搗栗ウツリ

軍配イクサマタ團ダマ

戸ドのノ鳴ナリ子コ

蛭ヒル同ドウ

鼯イタチ

布ヌメ

布曝ヌメササ

追加

右大槩記之余準可知而已

神樂

大前張 小前張 星詔 阿知女 榎物哥 里神楽

起請

誓紙 神文

おちろし

丹後

かろく

神々鋪

伊勢講

太々講 叅宮

非神祇

惠方

年徳

男山

放生川

龍宮

橋姫

山姫

精進

佐保姫

龍田姫

釋教

三句去三句はく 一句も捨て捨る

諸佛の名

諸菩薩の名

佛祖の名

諸佛經の名

諸僧法衣

諸の官名

諸宗佛具

羅漢の名

諸山号院号

寺

門跡

僧正

念佛

舍利

精舎堂

上人

題目

數珠

伽藍

和尚

塔和讃

拂子

庫裏

長老

談義

經

木魚

方丈

僧都

法問

五銚

衣

眠蔵

能化

論義

獨銚

客殿

笛

所化

灌頂

帽子

輪蔵

出家

鉦

観念

燕尾

行堂

鉢開	引導	諷經	血脉	坊	袈裟	主座
抹香	塔婆	花足	坐具	衆徒	僧	座禪
回向	順禮	看經	持戒	禪定	入定	厨
卵塔	線香	五輪	生飯	天盖	沙弥	頭陀
因果	錫杖	鉢扣	花曼	破戒	禁足	宿坊
六道	彼岸	常香	頓寫	護摩	素絹	沙門
地獄	石塔	柱杖	諷誦	尼	五戒	悟道

功德	曼陀羅	三界六道
非時	作麼生	薦僧
齋	結伽跏趺座	是釈二百去
流轉	補陀落	百万遍
迎雲	須弥座	佛躡念
來迎		
極樂		

非釈教

坊主落等の釈の詞
 醫者の釈名
 諸職人の釈名
 法印
 法橋
 鐘
 書記

○ 兩部

律儀
 二句は
 二句は

帝天

辨才天

多聞天

持國天

增長天

廣目天

聖天

大黒天

毘沙門天

摩利支天

如此天と呼ぶる神
此外も两部

山伏

金剛杖

梓神子

立願

通夜

兩皮形箱

月待

日待

庚申待

神仏のつらきつらき句 两部

○戀之詞

この去る句よりみむと懐く句とを不捨
但る時の名を二句去る懐く句と免は

戀夫

妹許

各気

玉章

惚

婦

詢

女房

二道

妹脊

娘情

媒

薄情

形身

姿鏡

仇

契

内儀

二心

紅脂

嫁

恨妻

腰元

門立

口紅

妬

妾

咒

花姫

難面

爪紅

孕

占

花智

待佗

白粉

誓文

訛

入智

袖引

化粧

思

縁忍

密夫

伊達

新枕

俤

被

曆

傾城

心中

長枕

幃

禿

戲

遊女

妓有	忘らるる	指櫛	陰間	振袖	白人	手枕
灰占	物怪	尻目つるひ	口吸	野郎	千話	耻
惡阻	亡八	舞子	めぐるされ	口舌	枕繪	唄
花車	辻占	水祝	水揚	流し目	踊子	戲女
坊主落子	懷妊	離別	飛子	色狂	出合宿	下焦
私語	執好	金剛	頬摺	袖留	口説	枕香
						媿

若衆	牽頭	無言	目元の塩	念者	辻君
立名	前髪	前髪	惣嫁	睦言	婀娜
意慕	近ほり	夜這	指切	腕突	入癪
身と焦	揚屋	髪切	股突	密通	若後家
後添	湯女	白拍子	結ぶの神	女衞	
千束の文	諸國傾城町の名	人目の関			
人目忍ふ	手をとめる	目くらめ	尻伝		

子をおほひ 仇くく 下紐解 身くくあみ

寐乱髪 垣間見 おの女の後ろる 近おほり

錦木 二尺をうりの木とをくおさひき 細布 うの細布とをほ乃 後朝 おりの女

いふまゝのひひあひまき 纈帯 女のほくく 衣 おの別れ

おのり 空炷 あきやう 虫の印 いりの血とくして女の乳はぬれ

非憲詞

髪 所縁 奥様 櫛 三縁 鏡 枕 乙女

中居 歎 宿執 夢 帯 半婢 乳母 泪

干詐 偽 後家 下女 衾局 天乙女

早乙女 瞽女 市女 賤女 学の文 旅の文

佛日月星と祈る句 禪

右のふゑは非といへども向ふよりゑに旅へ

○無常之詞 并哀傷 二句去一句もそも捨ん

鳥辺野 九一野 劔の山 三途川 魂結ひ
 灰人 灰寄 葬頭河原 白骨 髑髏 冥途
 龕 極樂 中陰 忌中 周忌 幽霊 人魂
 追善 追悼

○述懐之詞 ニ有る一有るをも捨ル

寡 白髮 三輪組 苦 繼子 貧 浪人
 眉の霜 侘 病人 苦 繼子 苔衣 乞食

世と捨

非述懐詞

愚 賤 山賤 座頭 瞽女 柴戸 尉 翁
 草庵 釣翁 賣炭翁

○人倫之詞 ニ有る者ニ有る捨ル

祖父 父 兄 姉 我 息子 娘 婿 祖母
 母 弟 妹 妻 子 孫 女房 伯父 甥

舅シヤク夫フ親シヤク彦ヒコ獨ヒトリ從弟イニ伯母ハハ姪シヤク姑シヤク

聖賢セイケンの名ナ實名ジツミヤウ俗名ソクミヤウ僧法師ソウホウシの名ナ

傾城ケイセイ白拍子シラヒヤウシ野郎ヤラウの名ナ 此コノ外ソト準ス一ヒトとトあるアルべし

非人倫之詞

帝ミカド皇女クワンニョ本院ホウイン新院シンイン仙洞センドウ太子タウジ宮ミヤ

親王シンワウ門跡モンセキ大君オホキミ仙人センシ人間ニヤウジン一門イチモン凡夫ボウフ

眷屬ケンリョク二人ニヒト三人サンニヒト大勢オホセ雜兵ソウヘウ衆生シユシヤウ典藥テンヤク

外科ゲカ本道ホンダウ老若ラウニヤク鍼醫チンイ入道ニラダウ百性ヒヤクセウ旦那ダナ

敵テキかカくク兒ニ俗ソク不仁フジン思同志シトウジ代官ダイカン

目代メダ民タミ目付メツケ苗主メウス奉行フギヤウ身ミ某ナニ私シ

地頭ヂトウ門主モンシュ橋守ハシモリ門守モンモリ花守ハナモリ山姫ヤマヒメ寒山カンザン

拾得ジツトク僧坊ソウバウのノ官名カンミヤナ 釈祖シヤクソ師シの名ナ 俗官ソクカン名ミヤナ

苗字メウジ守カミのノ字ジ師シ 醫師イシ佛師ブツシ繪師エシ鑄物師チウモノシ 是等コノトウ也ナリ

者シヤ功者コウシヤ使者シヤクシヤ医者イシヤ佛者ブツシヤ是等コノトウ也ナリ

お救多ある
りの田あり

梁	床	亭	家
隣	礎	樓	屋
天井	塀	庇	宿
座鋪	鴨居	椽	菴
閨	鳴居	小屋	軒
玄関	棟	博風	書院
部屋	夢	爐	廊下
	闕	壁	寮
	闔	窓	圍

○居所之詞
この句をこの句はく
一の句をこの句はく

余ハ准一ある人

居所用 本居おれお紙ゆふ

村	里	筑山	坪の内	泉水	路次	疊戸
外面	井戸	井筒	脊戸	簾	障子	鉤簾
翠簾	暖簾	土蔵	欄干	町		

庭 余も准一ある人

柱 古書お非居所としてとも居あよ用る人
杖柱 檣柱 ちよふ居あよあは

但及りのゆ町ある人
居あよあは

非居所詞

雑

五十五

内裡ウチノリ 皇居ミコノキヨ 御所ミヤノシロ 市場イチバ 軍場イクサノバ 鞠場マユノバ 神社シラヤ 佛閣ブツカ

非居所フイキヨ 千里チサト 邊土ヘノチ 市場イチバ 軍場イクサノバ 鞠場マユノバ 等也トドモ

○山類之詞トクノカミノナリ

山ヤマ 峯ミネ 嶽タケ 岨ソバ 岫ソウ 谷タニ 峠トウ 高根タカネ 坂サカ

尾上ヲノヘ 九折クワラヒ 山姥ヤマババ 山姫ヤマヒメ 瀧タケ 山ヤマ 関セキ 逢坂オウサカ 不破フツ 白河シラカハ

葛城カシラギ 尾上ヲノヘ 九折クワラヒ

山類用ヤマノカミノナリ

岡オカ 嶋シマ 岨ソバ 泊瀬トド 水邊ミヅノヘ 關セキ

非山類詞

吉野ヨシノ 島國シマクニ 瀧川タケガハ 山人ヤマノヒト 淡路嶋タンロシマ 三島ミシマ

越路コシノヂ 仙人セウジン 山ヤマ 山ヤマ 瀧津川タケツガハ 氷室ヒツムロ 山ヤマ 魁カエ

山鳥ヤマトリ 山桃ヤマモモ 龍田川リウテンガハ 山梨ヤマナシ 蓬トウ 松マツ

余ハ准一者ニシテ

○衣服之詞イフツノナリ

山ヤマ 鳥トリ 桃モモ 龍田川リウテンガハ 山梨ヤマナシ 蓬トウ 松マツ

裳モス 小袖コソデ 衣裳イシヤウ 縹絆シユバシ 白無垢ハクムク 被カキ 袷アセ 袂タテ 帷子カマビラ 紙子カミコ 衽フクヒ 襟エリ 褌フク 裾ス 布子ヌコ
 單物ヒトモノ 袖口ソデグチ 浴衣ユカタ 衣紋エモン 産着ウマキ 羽織ハオリ 褌カウキ

此外不断の各月の物皆衣類に

非衣類詞

袢コリキ 直垂ヒタシ 狩衣カキモノ 素襖スオウ 襦ムキ 袴ハカマ 奴袴ヌキ 袍ホ
 大口袴オウカハカマ 襪ハカマ 小忌衣コヨモ 白弦シラハリ 緋袴ヒハカマ 縹袴シユカリ

綴ツヅ 宿直衣ヤクジキ 祝イハヒ 淨衣ジユイ 袷アセ 衲衣ナクイ 蓑カサ 帶オビ
 直衣ジキ 上下カミシモ 肩衣カタクモノ 絆切ハシキ 水旱ミヅカン 葛袴クマカマ 水衣ミヅモノ
 十徳ジュトク 篠掛スノカケ 直綴ジキ 居士衣コジモノ 立付タテツケ 襟卷エリマキ
 掲布カサ 帽子カサ 袴ハカマ 野袴ノハカマ 紙羽カミハ 脚絆ケツバン 股引ムネヒキ
 頭巾ツギン 足袋タビ 三尺手拭サンシツテウシ 法被ホウビ 編綴ヘンツヅ 裘カウモノ
 道服ミチフク 羽衣ハコモノ 裙袴スソノハカマ 禪ゼン 襠キヤウ 纈帶イハシキ 藤衣フジモノ
 禩キヤウモノ 素鞆ソウモ 喪服モウフク 右宜服ウチヨク 祭服サイフク 僧衣ソウイ 喪服モウフク 礼服レイフク 常服ジョウフク

唯

生るる物皆非衣類

○水邊之詞

之有去之有来

蛇籠	筏	津	淀	海
水屑	樋	浪	渚	浦
濱荻	寛	泡	沖	濱
海草	流	潮	磯	川
須磨	溝	汐	汀	江
明石	井戸	沼	瀬	池
松島	海士	杜若	洲	澤
	魚火	瀧	浮木	堤
	橋	島	淵	流木
		崎	湊	

菖蒲

貝類

釣具

魚の名

水鳥の名

漁の名

船の道具

辛崎の三ツ松

蓮 萍 藻

非水邊詞

天の浮橋

夢の浮橋

白川の関

月の出汐

室の八島

難波寺

泪の淵

軒の玉水

鵲の橋

布曝

志賀の松

かまむ川

三瀬川

憲の海

蓮の上

硯水

天水

岩解

氷柱 管屋 干魚 干貝 苗代 田 鹽

○夜分之詞 この句をよむはく

月 星 曙 宵 暗 篝 蚊 鼠 寐言

寐 枕 軒 炬 城 晚 銀河 明星 日待

七夕 横雲 稻妻 龍灯 鶉川 行燈 初雞

胡狩 寐鳥 燈籠 挑灯 燭灯 紙燭 燭臺

蠟燭 短檠 手燭 假寐 居眠 夜着 燈明

送火 衣々 深更 化物 幽霊 夜発 辻君

夜多嫁 蚊帳 草の枕 衛士の焼火

星とこのふ 吐入 住吉の市 星月夜名

の時非 追儺 鬼中 除夜 大晦日

非夜分詞

鐘 泊 電 礎 虫の聲 三日月出ル 芦火

今日の月 朝の月 明をるれ 常燈 昼の月

暮の月 夢現 夢幻 夕月夜 有明入 残月

余ハこれニ准シキモノ

○食類之詞

喰物ト 飲物ト 品替りて

○旅躰之詞

門出 餞別 乘掛 輕尻 蒲團張 馱賃
木賃 跡附 本陳 旅籠屋 出女 馱荷

泊女 宿取 川留

○生類之詞

虫ト 虫ト 鳥ト 鳥ト 獸ト 獸ト
虫ト 鳥ト 獸ト 鳥ト 獸ト

○植物之詞

木ト 木ト 草ト 草ト 竹ト 木ト
木ト 草ト 竹ト 木ト

不高不低植物

本も草も竹も
二句を二句ハ法

藤 萩 欵 檜 茨 荊 葛 葡萄 薔 牡丹

枸杞 山吹 卯花 五加木

○書躰之詞 二句を二句法

文字の嚆 書籍 文臺 繪 草紙 筆 硯

墨 頓寫 夏書 手習 朱引 席書 狀

手紙 文 玉章

○火躰之詞 二句を二句法

焔 煤 灯 爐 巨燧 火鉢 炭 竈等也

余ハ准一あるべし

○風躰之詞 二句を二句法

風鈴 扇 團 吹 芦の声 花よりおあり

余も准一あるべし

○病躰之詞 二句を二句法

識成打來廻小餘
 次猶浦○頓
 子音双々野遣頓
 虫上槎吹事振
 中無登山深有
 鳴無殘止心
 鳴無上吳待比
 波憂雲又聲
 並請草迄木
 相合逢跡跡
 更小下指去
 相合逢跡跡
 更小下指去

雜
 今幾出入
 程邊經口
 外通外取時
 留通外取時
 置追音割小
 忘分渡多音割小
 掛方兼渡多音割小
 袖方兼渡多音割小
 外其初添
 夜哉川風替
 遣著付
 爲替通
 我共張
 路遠問果
 子路遠問果
 解鳥
 思落
 哉川風替
 夜遣著付
 爲替通
 我共張

春の月一 春の二月月一 春の有明一 春の季一

以上四也折去夏冬同断

但一代之季あり一巻秋をうりててもよい

心の月 胸ハナの月 月次ツキツギの月 真如シンニョの月 月草

寺号ジカウ 山号 付字ツキモ 曇クモルく秋とく光を照らす後ハ面の月ハ旅

たといハ秋生秋十月秋泊の月 星月夜ハ秋光と結ても非月 星の光をのりて

月の雪霜氷秋也 月ツキをうりてつりくするな之 月の氷秋之

月形ツキガタにして六冬 月ツキ互サレハ冬 月ツキ池 月ツキさやうカッラカ 檀ツキ秋

冬に光ホ照秋之 残る月 夜分ヨル但ツキよりわて秋ハ秋

非夜分 月明果ツキアカ ぬきありて ぬき秋

夕ツキぬ入 肚ハナ也ツキ非ツキ夜ツキ 月を祈 非意 月待ツキマ部

月讀神 月讀社ツキヨミ 秋夜分 夏の夜ハ霜 月ツキ成ツキ之

月の秋のまゝありてと 秋とツキありてと

○花之部

花 四也折二宛 花の字 三句去 初花 待花

まへ—写目より表の 花の定生 おとろひのまをてる者

他の季乃花

夏の正花 餘花 若葉の花 郭公結句 ホトトギス

秋の正花 花火 おとろひと花

冬の正花 飯花 花足袋 餅花

雑の正花 花紅葉 飛花落葉 結糸

余ハ句限ヨリウツヤどもおへ—

非正花分

花のぼりし 本名縹帽子也 花田帯 同上 ほろがむおきき惟

花丁子 テウジ 湯の花 花野 草花 花壇 同上 糶の花 カスミ

火花 灯乃花 トモギ 丁子 あじさい 桑のたまが 端へ 飴へ

浪の如 名乃花 深色のたまが 藍の色 おろ紙鼻紙

おろか 馬の鼻 花子の粗 キタマ 花町の親王 ハナマチ

花園院 花頂山 花川戸 如此氏苗字人名官名 所名つれも非正花

花王 カクワ 牡丹 ホウタン

花の富貴 フウキ 同上

花の隠逸 イン 菊 キク

花の兄 アノ 梅 ウメ

花の君子 クンシ 蓮 レン

花の宰相 サイ 芍薬 シャクヤク

六ツの花 ムスヒ 雪 ユキ

勝てる花 カト 海棠 ドウ

夕花 ユフ 夕白 ユフカホ

三ツの花 ミツ 霜 シモ

未摘花 スヘツム 紅花 ベニバナ

花うつも ハナウツモ 真菰 マコモ

四ツの花 ヨツ 紫陽草 アザミ

紫陽草 アザミ

花がく

紅の異名 ベニカラ

いろはあなふた於系

家 イ いとやん イ いと淋 イ いと寂 イ いと寂 イ

はね ハ いとけ ハ いとけ ハ いとけ ハ いとけ ハ

いつさ イツ いとけ イツ いとけ イツ いとけ イツ いとけ イツ

いさ イサ いとけ イサ いとけ イサ いとけ イサ いとけ イサ

いさ イサ いとけ イサ いとけ イサ いとけ イサ いとけ イサ

いさ イサ いとけ イサ いとけ イサ いとけ イサ いとけ イサ

いさ イサ いとけ イサ いとけ イサ いとけ イサ いとけ イサ

たろくかろ きやうくろのお
足二才二面を

たやしはら 林鐘 六月
塔の声

たまゆわ 紙と糸をさるさる
のちくさるさる

たきたあき たきと
あけさる

たあうつ 一薦のむく
あやめさる

みて 二句を
あうら

みあう 二句を
中の句は

濁うあ 平二句を
でトをトを

みけあ 一
あさる

みのま 一
二町ト云

ち乃ぐ 一
ちのめく

ちがろく 一
ちがろく

ちがろく 一
ちがろく

ち 一
ち

ときめ 一
ときめ

こま 一
こま

あう 一
あう

ち 一
ち

あう 一
あう

ち 一
ち

あう 一
あう

あ 一
あ

あ 一
あ

あ 一
あ

あ 一
あ

あ 一
あ

あ 一
あ

雑

雑

らん 二万去 為り八 面去 らんらん 日乃

らんらんらん 二万去 二万去 らんらん 七万去 為り八 折らん 二万去

らんらん 二万去 二万去 らんらん 二万去 二万去

むべ 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

むさび 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うらト云 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うかい 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うか 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うけえ 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うはく 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

のろし 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

くもの 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

くれあ 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

や 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

らんらんらん 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

らんらん 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

むべ 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

むさび 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うらト云 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うかい 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うか 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うけえ 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

うはく 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

のろし 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

くもの 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

くれあ 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

や 二万去 二万去 二万去 二万去 二万去

や〜七〇を 為る八 折 や〜ぬ 日 あり

やよト云七〇を 二 折れろ〜の 折

やまあひの袖 二 山生ル 袖

やま〜の 為る九 一 米の 折れろ〜

浦 二 二〇を 為る八 折 去

ま〜九 一 米の 折れろ〜

申の 折れろ〜 一 鶴 眉 色 とき 去

浦ら〜と 一 米の 折れろ〜

浦み〜 一 折れろ〜

申れり〜 一 大和の 卷 面 去

申す〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

申すれす〜 一 十寸の 折れろ〜

申す〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

即日

き〜二〇を 為る八 折 や〜ぬ 日 あり

き〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

け〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

け〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

き〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

下知の 折れろ〜 二 花さける 為る九 去

ふすおの 折れろ〜 一 折れろ〜

ゆ〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

ゆ〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

ゆ〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

か〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

き〜と 見 一 十寸の 折れろ〜

雑

雑

くそ二る一 爲入 面去 へん一 縁色 宿縁 皆おる

名く 活む 一名 若木 名ん 下一 嫉妬 のろ へ

て 爲入 者中 の 爲て 爲出 二一 へん一 下一 云洞 一こ の 下へ へん一

わく 下一 云洞 二わ 下一 云洞 一わ 下一 云洞 一わ 下一 云洞

わあ 下一 云洞 一わ 下一 云洞 一わ 下一 云洞 一わ 下一 云洞

わあ 下一 云洞 一わ 下一 云洞 一わ 下一 云洞 一わ 下一 云洞

うん 下一 云洞 一う 下一 云洞 一う 下一 云洞 一う 下一 云洞

さハ ト一 云洞 二さ 下一 云洞 二さ 下一 云洞

されト 云洞 一さ 下一 云洞 一さ 下一 云洞 一さ 下一 云洞

さし 下一 云洞 一さ 下一 云洞 一さ 下一 云洞 一さ 下一 云洞

き二 下一 云洞 一き 下一 云洞 一き 下一 云洞 一き 下一 云洞

きぬ 下一 云洞 一き 下一 云洞 一き 下一 云洞 一き 下一 云洞

ゆこ の たゆ 一ゆ 下一 云洞 一ゆ 下一 云洞 一ゆ 下一 云洞

夕す 下一 云洞 一夕 下一 云洞 一夕 下一 云洞 一夕 下一 云洞

雑

七十七

ゆりてふを 二百 菊 六 折 去 ゆり 二百 菊 六 折 去 ゆり 二百 菊 六 折 去

ゆくと云詞 面云 ゆき 七 ゆき 七 ゆき 七 折 去

ゆうれきん 一目も ゆき 七 ゆき 七 折 去

みと云詞 去 去 去 去 去 去 去 去 去

三ッうあ 七 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

一七 二百 するせん 七 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

志 二百 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

志 二百 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

志 二百 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

志 二百 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

志 二百 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

志 二百 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

志 二百 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

志 二百 折 去 折 去 折 去 折 去 折 去

新

七十八

涉る草

涉る坂

初より秋

涉る菊

秋九月十日の

涉る畠

初音

涉る

畠の

秋

歌二音二

和音の分

連歌

佐治

風雅

待

夜

舟

舟

各

伊勢の國一

いせ曆

いせ海

いせ

いせ

いせすり

か

か

か

か

東西南北

は

は

は

は

鳥の

鳥

鳥

鳥

鳥

虫の

虫

虫

虫

虫

鳥一

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥の

鳥

鳥

鳥

鳥

毛と

毛

毛

毛

毛

山別

山

山

山

山

鳥

鳥

四季

貞富

常や兼おろ家色あめつりて
眼を先へ一紙源このし
為替本以秋と塗るうり考お系
かどきくや世とるのこるる香みね

三物

貞逸

里林一六根ふ紅系物
漸きさうな下戸ハ笑り
月の空一巻づく巻物

文佐

のそあふはる巻物くたのひ

数句切字のり

や やぞ う よ ゆり あり あり
さぞ あそ あれ こそ あふ のふ いく
いさ いざ の色 そも 夕遊 あり
らん えん せん せん いづ道 いのみ
いづ いづこ けぞな があ あり
きり ちん あり

早のぬ むきキぬ あり

新

八十一

哉の部

苗代のまにひらう、勇小貞雨
めどくと木魚の身うやまを阿州芳雨
まよれは扇さきも果さるる米沢一鱗
長崎は舟く船の落葉や全
乞合も日陰くさるる全其山
白るに濡ても海の果さる藤里
あつくと八留まも情止るとも其木

やの部

子とくひや梅れはこま一掌乙牛上州平岡
初雪やいよく海に成すま全一芦遊
人の状をよめてとやむ果湖遊全
一雲流のどたれやみれと全桐直
まやや舟に曲くぬれ全孤遊
あまや縁う煙る濡上大塚仏珊木
東舟や秋のまれのま八幡山所船ト

初水と返そあさるけくろる全吏山
落る葉のまにうあさる石州ツラノ芦漂
湯浴びる度り八むのまにう全万国
友山流れをさくま全流
子とくひや梅れはこま全五出
隠居も仕る梅りの落葉や巴山
魚舟の斤帆照りま全可邑
あゆむ一寸まの柳うね柳風

初水と返そあさるけくろる全吏山
落る葉のまにうあさる石州ツラノ芦漂
湯浴びる度り八むのまにう全万国
友山流れをさくま全流
子とくひや梅れはこま全五出
隠居も仕る梅りの落葉や巴山
魚舟の斤帆照りま全可邑
あゆむ一寸まの柳うね柳風

新刊

八二日

隣りの二筋にすち柳うれ <small>鳥山</small>	古今の廿日梅やけーの <small>新</small> 子勇
曇りの山くわりのぬ様や風光	昔や昔うまると鶴流 <small>横壁</small> 松雨
くのおもひとておと踊り掌茶	夕月や庭花の寂も <small>小</small> 文哥
目振ぢふ松えまの雲や伴水	立秋や木も初 <small>長</small> 文負
高木の肩もかき紙系 <small>小池氏</small> 松童	梅うまや隣り <small>馬庭</small> 山
弟をせし中へ落葉か風車	清き水や <small>岩井</small> 琴山
妹いふこととあそびと牡丹や芦角	情うぬ女の結 <small>今</small> 淵柳
鬼百合の石を服での姿か翠路	七夕や風と雲はく <small>西平井</small> 悦山

大名の目も小妻の入りや百枝	名月や清き水 <small>今</small> 芦英
波りや一日流小洒の碎蓮舟	都くの梅の白 <small>倉ガ</small> 午雞
一葉もを淋かきる柳 <small>木峯</small> 秋空	梅咲や手 <small>今</small> 文萱
お徳とあそぶあそび見 <small>女</small> 錦秋	金梅や <small>イセ寄</small> 彩柳
大名の衣具の菊の手箱や御遮	熱風や後 <small>今</small> 花隣
日向漕舟の結 <small>今</small> 酒浪	乞食の果 <small>前ハシ</small> 池鯉鮒
あつと今何う <small>今</small> 延山	桐中や <small>今</small> 盛賀
	消流不常 <small>今</small> 市寶

予

八十五

菊好^{上河七} 秋^七 白^七 似^七 ても^七 星^七 釣^七 浦

筆^七 の^七 雲^七 入^七 や^七 枝^七 分^七 背^七 う^七 透^七 竹

二^六 ツ^六 瀧^六 碎^六 ち^六 存^六 ち^六 更^六 幽

心^六 う^六 り^六 ち^六 う^六 り^六 ち^六 や^六 羽^六 枝^六 鳥^六 魯^六 州

一^五 群^五 ハ^五 菊^五 糸^五 巾^五 の^五 世^五 定^五 九^五 阜

心^五 丹^五 の^五 菊^五 穂^五 の^五 枝^五 分^五 ひ^五 ち^五 芦^五 葉

吹^全 の^全 梅^全 風^全 糸^全 糸^全 の^全 竹^全 葉^全 杉^全 雪

菊^全 穂^全 の^全 似^全 合^全 ぬ^全 元^全 徳^全 の^全 梳^全 ま^全 う^全 芳^全 州

彩^全 の^全 水^全 流^全 と^全 け^全 ハ^全 様^全 の^全 扇^全 風

菊^全 の^全 や^全 河^全 辺^全 水^全 流^全 と^全 瀧^全 の^全 音^全 永^全 州

風^全 立^全 て^全 目^全 赤^全 り^全 ち^全 の^全 落^全 葉^全 松^全 露

文^全 彩^全 や^全 河^全 邊^全 の^全 菊^全 と^全 ち^全 齊^全 州

落^全 葉^全 江^全 と^全 落^全 葉^全 と^全 け^全 ち^全 源^全 江^全 芦^全 洲

障^全 が^全 簾^全 不^全 お^全 ち^全 ち^全 菊^全 の^全 白^全 東^全 州

淋^全 々^全 心^全 寄^全 事^全 深^全 ち^全 ち^全 紅^全 葉^全 柳^全 專^全 秀

松^全 中^全 や^全 戸^全 柳^全 の^全 園^全 菊^全 と^全 ち^全 の^全 音^全 羊^全 州

柳^全 立^全 意^全 寄^全 事^全 深^全 ち^全 ち^全 紅^全 葉^全 柳^全 專^全 秀

菊^全 畑^全 や^全 子^全 種^全 の^全 色^全 を^全 菊^全 百^全 客^全 應

梅^全 猶^全 の^全 母^全 も^全 襟^全 の^全 成^全 り^全 の^全 盛^全 山

菊^全 穂^全 や^全 意^全 と^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 文^全 子

色^全 く^全 に^全 風^全 を^全 喚^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 中^全 時^全 交

菊^全 の^全 花^全 や^全 吹^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 魚

初^全 冬^全 や^全 雪^全 の^全 中^全 へ^全 流^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 胡^全 統

菊^全 の^全 花^全 や^全 吹^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 醉

菊^全 の^全 葉^全 の^全 影^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 亭^全 松

菊^全 の^全 花^全 や^全 吹^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 鴨

菊^全 の^全 葉^全 の^全 影^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 好^全 時

菊^全 の^全 花^全 や^全 吹^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 山^全 童

菊^全 の^全 葉^全 の^全 影^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 山^全 童

菊^全 の^全 花^全 や^全 吹^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 山^全 童

枝^全 川^全 の^全 曲^全 と^全 瓶^全 子^全 梅^全 の^全 菊^全 山^全 色

菊^全 の^全 花^全 や^全 吹^全 ち^全 る^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 ち^全 新^全 石

菊

八

中々大輝るひきさうし 八幡山 呂竹

首のむらさき内斗 全 好竹

情こくきさの紫に糸 全 原月

仍事の海六切 全 芦月

白菊に才おきさる 全 曉山

あふれゆおを地 全 蘭思

白菊に才おきさる 全 柳糸

又白菊に才おきさる 全 泉志

草むらさきおきさる 江州 近山

遊やそれ笑の存る 越後 里風

石州 素兄

初妹や世に捨られ 全 芦洲

子と女や日毎くの縁 全 美次鳥

我くくも水のそらや 上高草 其國

お傘の時雨めりや 上郷 主原

友海の乃思る月や 上郷 月峰

迷ふはあふね 全 管竹

あやめあふね 全 桐

あやめあふね 全 霍昌

あやめあふね 全 川龍

あやめあふね 全 可水

あやめあふね 全 山笑

あやめあふね 全 芦元

月やめやはら 全 白翁

あやめあふね 全 三聲

あやめあふね 全 芦舟

あやめあふね 全 虎山

あやめあふね 全 友里

あやめあふね 全 万壺

あやめあふね 全 友之

あやめあふね 全 素石

新

八打七

今為やと堪地化しるる野上	泰山	と膝や罌のわやこ二日月其潮
むらして尚と香の日の様うな	矢田	名月や何城とる死の巻吏山
淵淵るかたれあふとどや	吉井	香や下枝とるはりそり次千翠
一葉流る初葉振りし世分や	全	空解とむすふ西やや初時富旭
款拵て懐のる香葉うな	全	夕まや燕も及ぬ淵の香渡牛
あまにへののころる香うぬ	全	吟を流化の香葉や燕の行連牛
借とわさそと下りる香うな	全	初交
多き壱籠の川端とる香うな	全	笠雨
		紅台坊
		若王

やを流流掃せとる香うな	西平井	周盈
水も香くもに香くもき柳	馬庭	里川
あま葉とて香くも香うぬ	岩井	淵水
枝川の香も香うな	塩川	笠雨
松木の香も香うな	全	笠川
藤葉とて香うな	下大塚	梅里
借とわさそと下りる香うな	下大塚	山
多き壱籠の川端とる香うな	全	山慰
		川筋や園を海の友子青鳩

澄のまゝ色法師とをらんかゝる全用和
曇々々名よき人の物全東川
浄瑠璃扇がごとく涼う武州熊谷芦碩
わらう内斗火爐全友至
おとどと己の世廣き全花作全文至
改まのほろろあつらふ赤至阿貞宿

雨のりや秋のともなう秋織竿交兔
秋の九月をよみ月る風車
秋の物も程や土用干其月
初るややうもほや菊魂其桃
ふんたの涼やあつらふ赤木
暮れや人の命もあつらふ杜平
ふに控ふ世の灯やあつらふ米甫
隠居の秋もあつらふ貞雨

史料のあまの八景一景を秀木

高サキ 秀木

おのかりと鳥のむき山全平湖
夕暮のゆきと名色と全藤巴
春雪の筑波六全杜宇全一之
おのかりと鳥のむき山全平湖
松影もちりく暮の聲宇貫艶山
秋深一嵐のむき山吉井笠雨
引籠の足跡と和歌の浦小幡重友
おのかりと鳥のむき山坂町竹雨

冬雪はあつらふ吉井芳雪
松庭
秋の月
好栄

おのかりと鳥のむき山

高サキ 好栄

新刊

十七

かきあかす不白心核棹安戸東里

朝毎の愁いも涼まろ水雞歌

若ふ茶湯あり萩の候友之活計堂

風よりあくる長六郎の菰の表芦魚

ろり

新田小久を付フナ岡ろりかん湖雲

ゆ舟の帆吉井の横復児

あせ

鏡を正しるの日に深次松岸

梅の風園に恨三虎をく舎牛

く閉て扇の風三虎も芦夕

何り

尻桃井氏を高く壺を扇志

ゆ舟の帆阿州の横嵐睡

ゆ舟の帆阿州の横嵐睡

さうとあそびフナ岡の山榊

乃法吉井の傘乃和周

涼吉井の秋を松月

いり

素八幡山の秋秀竹

ちね字

菊小幡と秋空

名東の屋宮崎の月幸成

あせ

況高サキの月湖青

ちね

星米沢合習谷

ちね

松吉井石

あせ

ゆ舟の帆小幡の横素牛

竹

竹

り

落ての紫と見南川 イセサキ 花の朔 芳柳
 粗氣ともいふの障新村時 全 有隣
 拍の響とあそぶの不秋時 ハシ山 原翠
 尾勢の垣垣と一花 高サキ 呼雪
 菱葉と舟中忘れ 深沢 里鶴
 下月 吉井 下りる 吉井 考
 よ

玉河とを又引舟 高サキ つを董 河月
 ぞ
 燕の何おゆる 八幡山 乙山
 の
 己 イセサキ 延山
 二の イセサキ 繁柳

眩差 高サキ 花の 全春 山 貴

高サキ 當屋

今 前 壽保

牛羅

切字 前

早ぬ

紫の 大 負雨
 魚 前 過改
 豊東

延山
 竹倭
 米沢 伐柯

紙漉の志の公る紙物し〜れ竹文
 多物の約らし〜中〜多文^{元女}紀遊
 錫の結と花のた〜まれば^{馬庭}里水
 や〜も〜^{熊谷}陰夕
 思ふぬ本夜のゆきあま乃山至^今
 表れぬと〜^{フ子岡}貞宿
 今ハむ〜^{風音ハ}
 表れぬと〜^{ハ平岡}

芳甘人送れ様不風の小^小其朝
 万物の乃た〜
 一の秋の乃た〜
 己れま〜
 ことと情
 蓮葉や
 人の〜
 貞橘
 柿の核

六〜時〜
 一〜
 多〜
 砂和の〜
 跡は〜
 孫〜
 夏あれや
 夢中庵
 笠翁

己〜
 意〜
 猫の子は
 意〜
 全
 猫の子は
 意〜
 意〜
 意〜

四季

船の灯乃る夜あゆみ 渡月佐野 枕流斎杜川

一樹の月もまよひて清き水

後弦聲のこゝろ血筋や出来ぬ

そよよとも松浦の波の音

全

忍路や雪の梅も暗影の山 吳周
猿曳の猿も夜更の松

全

こゝろせても結ぶる縁の春 一徳

推のまや猿牙に返れては春

風はこゝ夏腐の佃お秋乃音

大名の火よりともる火燧

全

石枕の流るる水 柳上州岩井貞笠
一さけの夜の静けさ

そよよや畔のまよひ月を看

并にさゆりおれとる音ヨシチ婦

全

子乙女は流るる水も汐干は貞國

子乙抱て人の静や門はまよ

似てさゆり風はこゝろて後の月

庭舎お役者もまよひて春

全

時のまよひく別建て初葉

傘傍りて静けさ

全

まよひのまよひく別建て初葉 石之

秋とまよひに河原の静けさ

福書の静けさ

船の静けさをあする子乙

全

口ゆて蛤成る汝下しの那芦邑
惟子の言われやまのそら
去白あむく物う蕃椒
張きて懐子も多しそ流

全

上州平岡

伊勢ある七十ある飾弁貞川
海場やあやしくぬれ古社
程新そ若も志は益女節

そら人人もあつる凡を干沼芦管
惟子とあふ懐のやま鹿
目もそらあつるそら後の月
あのを自由れきふ令海鹿

全

上州平岡

小山の若ききたるし初梅貞陸
あつるそらあつるそら
一はそらの秋やあつるそら

道方の麻もき方やあつる

全

まゐるや物もあつるあつる
園のやれ焼く消えそ杜福
林のあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる

全

上州大塚

山あつるあつるあつるあつる

道邊の女の腰もあつるあつる

全

あつるあつるあつるあつる
こかろあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる

全

上州平岡

あつるあつるあつるあつる

善きとて振袖もけり田極唄
移はすのころとてささるむせり
汝子へを母とてささるむせり

全

拙入ぬ山の手扱やを帯く芦汶

上州子問

淋しと成死て仍やかんと香
秋虫のささるるれぬ後の月
そよ風の消り枯せり

白くと咲き下り蓮の花
淋しと成芭蕉花ささるるの
初雪も又ささるる山も秋も

全

あつぬをささるる山も秋も

上州八幡山

伊勢も又秋の月ささるる
秋の月ささるる山も秋も
度とて大赤菘ささるる山も秋も

全

南窓亭

橋外舞つた女羅も山芦相
白るや葉舟のかげに橋柱
夕日新松の柏や若くも
秋の月ささるる山も秋も

全

おききやとてささるる山も秋も

阿州

異さるるむかひの峰

全

南見庵

春柳の其まゝささるる山も秋も
あつぬをささるる山も秋も
秋の月ささるる山も秋も
おききやとてささるる山も秋も

全

旅いりてささるる山も秋も
橋の尻もささるる山も秋も

中の春に木葉を落す月夜
春の夕や晴心移るよ一合

三物

拾花甫

事くてもお祭と詠とお祭
貞里
八か八かよ月八海をさ
よ君れ所肩とさる憶情

全

秋の空を星の別れ
初雪や雪のよく一合

三物

一祖堂

いつと入さぬとさるは
芦飛改
芦長
形かにかる鞠の形
秋と雪人知方とて思情

全

波場まよとさる夜
波光
森酒八癖お成て涼
水園の月とさる子の恋

全

上州幡山

おわれお金住い
桐船
坊と結るも葉秋と頼杖
水元の小亭へ入るを和けて

全

呵られお橋とさる
秋の月
秋の酒の酔の秋と飲
一瓶の手際お祭れ
秋の月

全

上州幡山

遠方のい
松花
垣のりやう
秋
琴の曲は音の鳥とぬる

全

うすやうなうなを桃の酒全芦雁

故葱菘乳母うねのまを

菊のちりぬれを冬をた

全

多むに曲りれ種初あり全芦笙

体んこまきの形不情冷

月を待顔向燈海も帯て

全

山家の片くれ初を初月全弘山

秋つげをいたまぬ秋虫

ある葉屋の秋は初をありき

全

二人来てむらう人初ぬ初葉桐栄

塔の目にはまきまき入挿

てふくとまきまきの筋透て

全

おむやまきまきの初冬系蓋平松閣

窓にまきまきの陽楊

神の初まきまきの挿て

歌僊

風志

又後これかきまきのまき田が

挿て初まきの南に初挿貞山

常仙

舟と漕首あのをやが長 芦魚

撥算のまきまき入挿

夕月の秋まきまきの挿て

哥仙

二ツとツまきと熟味の種り友里

款冬まきまきの挿のや 芦管

離れ初まきまきの挿のや 芦邑

あつたにわらふ鳥の常 有佐	繪瑠しく村の子うま 貞国
津陽晴も沙濱ふりせ 月貞屋	凡呂吹に吹雪き月もわらふ 芦管
葉の約来も物影の 聖執筆	笑て斗程ふり下され 友里
あふてう海を信のが 常貞山	振向を右聖殿へ結む 貞国
世も名をたれ 笛の一人 風志	女の志ぬ 龍の移り 芦邑
ありあめをこゝと 現にまきけり 有佐	手拭と大雲を並てす 友里
かかると鳥の泪を 常仙	し柳の尻れ半に 芦管
日並れ 鶴へくくと 後よ 貞屋	その噂をたをけり 芦邑

柏う下の方かゝの 風貞山	柳もあまを 蒼若か 貞国
川魚の骨を 風志	母祝の乳の 難し 芦管
百斗ある 鳥の 物 有佐	窓をまわると 大石 友里
ゆいゆい 舟も 常仙	村くれ 貞国
松は 終れ 達 貞屋	劫度 乃 芦邑
まかて 院 塔 下 有佐	月 友里
月代 貞山	度 芦管
園 風志	学 芦管

新

二二八

毎満くむまの瀬との貞屋

哥仙

ぬちやほ下ふたのやうな貞

哥仙

上州藤岡連

あ依の又そあうひ葉抄り一徳

松のまきけうへりぬの月貞川

料理の侍まきと物人結縁芦翁

跡も縁して竿にさるる貞賀

原抄のる巻更持のう

百姓の葉れも懐か来秋お貞陸

角力とあふお潤市のま一徳

井戸を汐のうへりく貞隣

比るれおはきりきまの月

はき替て舟奥のゆの抄り貞宿

あまの埃の初景と来る芦翁

端と突て色ひむく大西湖

色^ウくはまろれお危向ふ膳

縁^ウにすり合傘の延めり貞

溝けく流るる酒の魂一徳

舟の烟と移く漕こむ湖雲

やんりりて赤あき葛の口車

借^ウせああると料理まはる芦汶

風^ウにこもる油の枝あ芦翁

睡^ウのぬみは口て封切ル芦樵

かきとあふおひおひおれ

船^ウ橋と虎とあふおおの裾湖遊

風^ウをよくとむとこくる一徳

弟^ウの^ウ後ひあれて立山瑋

物^ウえうまにらやうなおき

極^ウ先お陳^ウのまき月係霍山

ま^ウく^ウのう^ウと組あ芦翁

疎^ウく^ウおあんの大々東

後家よの尼と信との習を仍

秋のぬの終り入つては後一徳

探函の学考と出る家此月

秋ても風の初なる人の也 芦翁

壁玉の封疆て浦の曲をむむ

あくるハ秋のたをこり一徳

川舟のむしつを八月くろ

秋茶の埒も飽る鼻る 芦翁

る好の端張とくして牽て日

日ハ言えんや洵強余周賀

浦風ふりぬぬをりては也 芦夕

箒の中うら考此を文里

余 表るに枝極うををゆりて 芦遊

此立写ハ母乃秋立貞陸

纏物に物する物とこの焼 湖雲

肝ももたるる一私宿貞宿

登んて必船の帆もはる

星はぬもも映日乃を一徳

世後のてをむしつをを佛

碓嶺ふ糸の米搗

活家よハ一階とて必も樂 芦翁

名子家よのれあに後とを

月夜お悦そとをのひ羽とを

田舎裏えき 雁の昆巻一徳

流やよのなれは是國西 西湖

飛よとるをと伴勢は松 鶴山

内袖の糸綿合府ハぬらて 東川

彼者伴我と物掛乞 芦汶

石巻と二階は仕務ハ物好 周賀

春の藤あをに別たててま 貞川

修屋おをせわつとを遂 宇月貞隣

土佐村あをの葉く物不 明

あふまほせせむ抄弓

時とゆふたぬ人園両

手の判をほみかきか合者芦翁

あふまほせせむ抄弓一徳

秋くふせりり花の山芦翁

運指えりてかき果者

哥仙

上州岩井連

和とせふま裏へあふまほせせむ抄弓貞笠

打出たむる靴くちゆふ

獅子たね代の子角を流芦夕

下戸とてふこ腰をきし海山文里

あふまほせせむ抄弓且山

ゆて牛やも紫く年のも貞賀

長閑をきりて抄のまかり貞笠

哥仙

句愛の口うたひるむ抄弓貞雀

怪子さるる疎疎の乳貞山

丸金羽着うらふれ不福好和

巻ふりてあふ附て出れ松仙

ふす月の氣の祥きる後蘆里川

律のあふ人の低心態並執筆

秋草のまき姿形小産と危淵水

仕立次第此端を待せる里水

あふまほせせむ抄弓松鳥

鶯のすむむ抄弓の巻芦翁

吹うらふま羽然も月も出て貞橋

波もゆきふ抄弓船唄貞國

蓋と流まゆるもはうらう貞雨

屋振落うらうのうらう貞玉

杉枝くそそ夜のるそゆる芦翁

柴子仕立て正月を待貞鶴

大名のあふと海ま子も啼貞雨

坊 <small>の</small> 町 <small>の</small> あ <small>ま</small> く <small>さ</small> く <small>吹</small> 里 <small>鶴</small>	子 <small>あ</small> 茶 <small>の</small> 持 <small>へ</small> あ <small>く</small> 貞 <small>橋</small>
旅 <small>還</small> に <small>本</small> 履 <small>を</small> あ <small>く</small> 以 <small>笛</small> 自 <small>憐</small> 琴 <small>山</small>	船 <small>の</small> 月 <small>花</small> 柳 <small>の</small> 望 <small>む</small> 杜 <small>若</small> 貞 <small>玉</small>
禿 <small>け</small> さ <small>く</small> 靴 <small>袖</small> の <small>霞</small> ひ <small>淵</small> 柳	何 <small>冷</small> ま <small>く</small> ま <small>く</small> ま <small>く</small> 祥 <small>某</small> 貞 <small>國</small>
か <small>そ</small> ゆ <small>く</small> 足 <small>不</small> 日 <small>を</small> 青 <small>松</small> 仙	春 <small>の</small> 花 <small>の</small> 送 <small>者</small> か <small>ろ</small> と <small>振</small> て <small>赤</small> 貞 <small>鶴</small>
虫 <small>持</small> 不 <small>出</small> て <small>虫</small> に <small>拵</small> る <small>好</small> 和	二 <small>階</small> 産 <small>後</small> 上 <small>子</small> 衛 <small>を</small> 芦 <small>翁</small>
以 <small>社</small> と <small>若</small> 入 <small>戸</small> の <small>後</small> 加 <small>減</small> 貞 <small>笠</small>	矣 <small>さ</small> け <small>む</small> の <small>者</small> も <small>心</small> ま <small>白</small> 拍 <small>子</small> 貞 <small>橋</small>
杜 <small>山</small> 陽 <small>治</small> の <small>好</small> く <small>入</small> 桐 <small>翠</small>	口 <small>を</small> 吸 <small>き</small> て <small>乳</small> を <small>引</small> て <small>見</small> 貞 <small>國</small>
む <small>登</small> 飛 <small>南</small> 弾 <small>人</small> と <small>連</small> 歩 <small>行</small> 里 <small>水</small>	蟬 <small>よ</small> く <small>は</small> る <small>は</small> あ <small>ゆ</small> む <small>あ</small> の <small>山</small> 貞 <small>雨</small>

軽 <small>く</small> 忌 <small>り</small> 八 <small>景</small> の <small>夢</small> 執 <small>筆</small>	や <small>よ</small> ひ <small>の</small> ま <small>を</small> 拵 <small>び</small> て <small>う</small> ゆ <small>る</small> 芦 <small>翁</small>
七 <small>名</small> 人 <small>の</small> 火 <small>の</small> 破 <small>の</small> 夢 <small>を</small> 夢 <small>に</small> 書 <small>琴</small> 山	あ <small>り</small> 切 <small>て</small> お <small>松</small> あ <small>も</small> お <small>進</small> 我 <small>貞</small> 玉
毛 <small>敷</small> 髪 <small>の</small> 敷 <small>く</small> こ <small>ろ</small> 松 <small>鳥</small>	盤 <small>白</small> く <small>と</small> 鳴 <small>る</small> 赤 <small>を</small> 貞 <small>鶴</small>
多 <small>す</small> く <small>山</small> 若 <small>後</small> く <small>く</small> 此 <small>身</small> 後 <small>ひ</small> 淵 <small>柳</small>	う <small>そ</small> 寄 <small>き</small> 女 <small>衛</small> を <small>看</small> れ <small>拵</small> ま <small>貞</small> 雨
さ <small>ゆ</small> 六 <small>枕</small> ま <small>の</small> ま <small>く</small> 横 <small>淵</small> 水	娘 <small>の</small> 夢 <small>の</small> 割 <small>鏡</small> を <small>持</small> 貞 <small>橋</small>
一 <small>間</small> は <small>涼</small> く <small>さ</small> 波 <small>る</small> 表 <small>を</small> 里 <small>川</small>	か <small>る</small> 時 <small>と</small> 戸 <small>の</small> 法 <small>ハ</small> ま <small>れ</small> 中 <small>貞</small> 玉
あ <small>と</small> ま <small>よ</small> 八 <small>道</small> の <small>夢</small> う <small>よ</small> 貞 <small>笠</small>	乞 <small>食</small> の <small>歌</small> く <small>及</small> 橋 <small>の</small> 下 <small>貞</small> 國
吸 <small>臺</small> と <small>漏</small> く <small>て</small> 友 <small>友</small> あ <small>れ</small> り <small>好</small> 夕	十 <small>分</small> に <small>菊</small> も <small>後</small> り <small>て</small> 後 <small>の</small> 貞 <small>鶴</small>

夕影をすゝむ半の月あり里水
あや本も月さむる白の香桐翠
うみ亭の満る古衣衣乃白里川
藤の葉を結クキとこひる後ひ里霍
いのを思へを粒りも形淵水
糸合名ウと妙をながれ漕離れ桐翠
伊勢海入と夢む後摺里霍
丸茶不練と授せば人も立淵柳

栗と香りにあふせりの貞橘
百姓の狗不コとる秋の風芦翁
糸揚屋の笑影見ふ貞雨
宝珠の足代前前に初れ貞玉
竹輿て産院産院のあふ本令貞國
名ウ子乙女の一人は来る畔侍ひ貞雨
魁と新新とよる秋鳴貞鶴
檀方檀方に伝伝と海海と舟舟のり貞玉

吹上りた返りてを交松仙
見度にあのありしれありて松鳥
位保姫犯り後以短冊琴山
半哥仙

風のあひ貝海の名平 芦翁
来りて交後あかの國 貞國
妻妻とて屋屋と人人 貞橘
半哥仙
湯を鳴茶うらや襟のかけ衣木春
百姓の地へ捨る川物文耕
生徒の酒買にふつる毛袴 貞里
拾ひしお並海邊 禪木春
危危なり大工人は百千名
経うのく終破終破る危貞菊

夕の初に春をとりよて月見客 文引雨風に換の換ひる貞里 秋風北吹お付ても帰の里 文耕 夕の初に春をとりよて月見客 文引雨風に換の換ひる貞里 秋風北吹お付ても帰の里 文耕	沈むる月を探りし門 ありの心にかしつる紫 若人翁 恋をしの思ふあふを秋を けあしつる小章を付く 貞菊 志のぬひの皮を張ると 成り 里んぬれぬの拂出する 芦翁 市にる喧嘩の中に半 花て 長生坊の言を聞き人 なる 貞菊
--	---

夕の初に春をとりよて月見客 文引雨風に換の換ひる貞里 秋風北吹お付ても帰の里 文耕 夕の初に春をとりよて月見客 文引雨風に換の換ひる貞里 秋風北吹お付ても帰の里 文耕	松杉の尻に月を懐然と 河橋を渡る人合なる 芦翁 舟に渡り推を放り秋の くれ 貞菊 志のぬひの皮を張ると 成り 里んぬれぬの拂出する 芦翁 市にる喧嘩の中に半 花て 長生坊の言を聞き人 なる 貞菊
--	---

半哥仙

半哥仙

熊笹も水菜とあるぬみ月を
 芦泰
 比の公敵て毎る懐故なる
 虎山

部

百五

そと虫とをましく塙陽芦翁

さつそくと市の文書柳子院て

箕あふする程をよ次に危芦泰

エケ月小丸冷よき小蓋

相棋の喧嘩秋の陰癖芦翁

淋しきものやうとほ村に紫

髪と掃出に陰へこの唐

人美の重とつらと旅衣芦泰

柳のこすえ極ふ秋風貞山

月もちや大蓋にあらしり芦舟

麴の夢のうい宿舎錦山

名り故人の袖も黒小袖圓山

志く旅よ目のゆく関さ貞雨

本号とて和者中れ夜本立貞山

竹輿とらめて医者さる毎虎山

大名と産をともあつてぬきり錦山

そりお流きる瘧の星紫

あやるとる目後口をばくろを

ちり野も地着れぬふ芦翁

卵卵に茶の湯をわをわめめ

並好う月るも終るを

うのうとあを助なる射松芦泰

絲直の秋はく美の清勢

船舟の舟れがうふ松の声

ありの中に極別る者芦舟

若月を車に坐せて冬を春貞雨

秋て雲もをき月影圓山

獵人の地獄もあつておろし虎山

すあやうぬけとらけは法螺貞山

休政う世の橋をたてり芦舟

えをれせ愛は海より松山

荒法海を力きとむのり貞雨

此装の是とてある隆寛芦翁

半哥仙

祥林の勝る是とてや杜の圓山
削ぬお磯の種の中一貞山
剃刀の紙おまわくと吸付天貞賀
掃除仕置の俵もなき桃里
冬囲月に俵子もなき虎山
指役結て目取あうり貞雨

あよとくその勝る山門圓山

半哥仙

あそ今世の隆寛は梅の窓栄松
お磯をくれば雄冠うれ芦翁
帆もあ船山の棧うり東風きて
家もあやしく村赤の裾栄松
すうりとい橋満て蓋はき
目に見ぬ秋と下戸の足筋芦翁

神風や鉢のどけき松もする貞山

傘もする田おおひ女の声連て桃里
白ふもあうり代もあうり松貞賀
むう月の姿納め有る山貞雨
ぬと勝る鳥もする貞虎山
文おおる人の姿はうり手貞賀
吹すの雉もする貞月桃里

連てあうり純子もあうり諸子

紫花の雲はりの指次栄松
あまの足見ぬうりうり
お角切つてかり文屋お芦翁
鳥付食成飛脚もあうり栄松
あうり富士の情のまよふ
菴を建てる月をうり貞芦翁

鴻の巻もろろそ目く白く 虎山 井戸塔の水筋とある笠のふり
 お盗人小打屋とてきり 貞雨 和光の巻とある
 苧為竹時のもどカクそ 圓山 所専く一枚あるむの山芦翁
 地の南につくむ糸花貞山 これも和光の種のもよみ 栄松

半哥仙

夕阿改

懸垂ハ幕の面く九考即米成 百姓の夕飯時と月即素勇
 かく繕きあるふ松の風 風のゆるれば吹く松並
 梅のほく酒即古あるまき 子綿とれ十分は帆とて

半哥仙

林氏

喧嘩の好む人の大揚 岩丸めと井の段の刻うあり
 扱もと手に付と筆目 扱目の中のまへ舟布はて
 乳母に乳のとも岩松の巻 乳母に乳のとも岩松の巻
 婿いの婿うてえさる統の病 婿いの婿うてえさる統の病
 燃ぬ花お密とて燃る 燃ぬ花お密とて燃る
 赤水とサシく風あるの門 赤水とサシく風あるの門

お刀持のふれ脂きりり
 むよろと来て飛越ス月の際
 かつ牡丹に花河いの巻
 遺れる我小はくそや後い戸
 ゆと吐くふし舟きりり
 粒熱の袂布かめ目新井
 為袖とて是て條巻とひる
 妹お彩む萱葉のまいハ

喧嘩の好む人の大揚
 扱もと手に付と筆目
 扱目の中のまへ舟布はて
 乳母に乳のとも岩松の巻
 婿いの婿うてえさる統の病
 燃ぬ花お密とて燃る
 赤水とサシく風あるの門

まのむきにあらうとめり
本陣は江戸家の幕を打
つちふかきつる合沢のた
げを揺れ小枝て涼む月
味香と禁中へ娘あり
お智へ此の向ふに畏つて
こゝろ自りてむす難入

半哥仙

きよはつちのちの所の後
物難小判とちてたてり
辰松風は味を結ゆる
初南と余ををふふ
道はひと別る地美合の
月夜の時もまらぬ按す取
小袖をむくの早紀乃芝

半哥仙

初房の糞に濁る名馬の海
月おふ松
こころに結り着ふより我て
かきこむ人の影まきこ
本丸十八町の暮の雪
鹽にすのろの草外
むき控てくふ木の夕嵐
うんてうむの法の焼火

松原氏
貞州

谷をうへは雪の多
鹿とまきこむ鞍の交り貞山
向ふ種押勝ふも接るらん貞洲
山と越建は由登所故芦門
雪うらむ草も雪てまの月秋空
やのく纏ゆる嵐火并雪
大園の脊中鼓は塔のちり苦悶
人生七十を言うる餅

上州小藩
芦門

田圃出交ち成程人おすらん
ありや 菜飯の世中
八重の葉縁にまきく在の
きく下の菴の初雪
神風とや入きりの松の風
要も久しうまうけと傳
まの起てまはせぬと焼乱發
原てやる海芽生の宿

初雪のそぢもみんを雪の宿
まのの獅子の座にありて
中飛車に打ちまれの藤を抱
はる人粉縁と區所の口癖
法下れ葉子しき松をうき
ぬらうと山の夏の秋乃霜
一哲ふるまきめと鶴の声
品川とま人の碎 醒

華雪の旭に朱鞘光るる貞屋
袖あり 羽織交うとよる貞山

半哥仙

上及山名
菊水堂蓮

涼水の濁り鶴の敷もあめ 芦橋
蒸るるそよ風の庵に泥龜 菊要
引付のそよ成雲の帆の足て 水荷
葉をへちあかす下を飲立水 芭
二三里中と若はあめ 月秋 水延

桶のちあははも袖の振合
吳男うつくは髪のおまふ

首尾

猿啼て枕淋しに霜おる 卧牛
まきく鶴を待ぬ園の戸 芦翁
酒のこぼれ此子影うき
先法うきと海く棋の會 卧牛

考後の冷もやりのむに出来水亀 眈の肩もれ字に鳥帽子連
 大門ウとまきとと秋の空中之菊罷 徳圃のゆれと八束穂の奏古翁
 酒のまろとにに古志のけき水羽 木男と浮ても夢はまきと
 眼をみゆり切投て巻をうらら菊山 車に海ぬ糸の継く一卧牛
 半の巻てある救の傍水荷 片云にねまじと神公志あう
 掃人の思をさるる掃帚清水延 出教思れす呪の息芦翁
 汗をかき後後ハ狂おまき菊要 小山の鼻も振ふ巻くく
 望れど葛蔭の内の窓をささ芦橋 勢も羽を伸長する是卧牛

人なりと又もきくの巻云水巴
 顔若のくく大りの吼られ水亀
 和者之巻巻と名を相伴菊罷
 木の巻とねらて棋寄れ月清水羽
 手紙うととと巻も来る閑山

裏白

松柏小の目も交わと
 とらむて

表白

東氏
 美格子要と後小常巻糸 徳山
 落付きうく生く毎天
 葉傍うに大の杖を拾れ
 猫の足てある巻巻の側
 出ては又巻に隠るく帆子松
 遠く揮ふ我も目もくき
 松柏小の目も交わの

舞の富貴やわがうけ隊洗柿菴貞至
 晴吹和玉の形やあつらふ 芦翁
 多のむい月比蘇八能志れて 貞屋
 旅子も鏡のあつて跡附湖船
 石壁に古祝の詠の理をほし 芦翁
 うの秋風を今あつたれ 貞良
 先陣は越て後陣と入替り 湖松
 五代兼代に較の蒲鉾 貞屋

物産て東の物産のそま
 秋さひい比述懐も生れつぎ
 下あの家鴨運る白なる
 田楽ハハのたより 瓶 色
 和信丈八のまこ吐出る
 一ッかて半町中花 墨
 谷の穡も回みるの門

四季

雪を吐て霞にひせる 松橋山 貞至
星川
 宿を八按てりきり雪の降
 落葉や初ハ代りる 秋の夕
 と食うく先知初つ小秋時を
 亦
 初雨く春のふやむ大根 貞賀
 海棠の欠福うか梨のあ

秋夏の萩の句

了りくより 笠に
半のや中
 引
 目や萩の年比引れて 菅原
 腰に懸るるうゝ 萩とて 橋本
 是に然れと年比好え 落の
 又咲や萩もさういけし
 提菊や十二のの

あてふは... 梅姫
仲や風入... 鴨うら

洗ひ髪... 栞柳 毛髪

夢に人多利く初音... 貞屋
鶴や己う是を鶴抱

水仙... 水

奉納

真赤... 浄